科目名	哲学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年前期

担当教員: 非常勤講師

## ≪科目目標≫

物事の根本原理についての価値・見方・考え方を理解し、生命の尊厳、人間尊重、倫理観に 基づいた行動や思考ができる基礎を養う

# ≪成績評価の方法≫

レポート及び筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

はじめて出会う生命倫理 有斐閣

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	哲学と倫理学・生命倫理の歴史と日本への導入	講義
2	2	出生前診断がもたらす問い	講義
3	2	生殖補助技術が問いかける問題と再生医療をめぐる倫理問題(1)	講義
4	2	再生医療をめぐる倫理問題(2)とエンハラスメントと新優生学	講義
5	2	診療と研究参加のインフォームドコンセント	講義
6	2	ホスピス、緩和ケアと現代の死生観と介護される者の自己決定	講義
7	2	安楽死、尊厳死の是非と脳神経倫理学	講義
8	1	まとめ	講義

科目名	情報科学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

情報と情報処理の基本的な考え方や方法を理解し、看護実践や看護研究に生かすための情報 収集と整理・活用方法を習得する

#### ≪成績評価の方法≫

課題提出及び筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

随時参考文献提示

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

#### ≪履修に当たっての留意点≫

視聴覚室で授業を行う。各自 USB (2GB 程度) を持参すること。プロジェクターを準備する。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	基本操作 キーボードとマウス、日本語入力、強制終了	講義・演習
2	2	レイアウト機能とコンピューターウィルス	講義・演習
3	2	SNS 講習、情報リテラシーとコンピューターリテラシー	講義・演習
4	2	タイトルロゴとテキストボックス	講義・演習
5	2	図形描写と段組み、ヘッダーとフッダー	講義・演習
6	2	パワーポイントとアニメーション	講義・演習
7	2	パワーポイントのテクニックと文献検索	講義・演習
8	2	エクセルグラフ	講義・演習
9	2	相対、参照、絶対参照	講義・演習
10	2	基本的な関数と電子カルテ	講義・演習
11	2	If と Lookup	講義・演習
12	2	串刺し算、パソコンの基本的構造	講義・演習
13	2	データベース	講義・演習
14	2	統計の基本	講義・演習
15	2	まとめと実技テスト	講義・演習

科目名	教育学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

教育の本質・意義・機能を学び、人間の成長・発達と学習との関連性を学ぶと同時に、人に 教えるという意味について理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

〈学級〉の歴史学 自明視された空間を疑う 講談社

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	人間の成長、発達と教育の意義①	講義
2	2	人間の成長、発達と教育の意義②	講義
3	2	人間の成長、発達と教育の意義③	講義
4	2	人間の成長発達と環境の影響①	講義
5	2	人間の成長発達と環境の影響②	講義
6	2	意図的な人間形成作用としての教育①	講義
7	2	意図的な人間形成作用としての教育②	講義
8	2	人間を形成する緒力の中での教育の位置①	講義
9	2	人間を形成する緒力の中での教育の位置②	講義
10	2	学校教育の制度①	講義
11	2	学校教育の制度②	講義
12	2	学習指導	講義
13	2	生活指導	講義
14	2	教育評価	講義
15	2	看護と教育	講義

科目名	国文学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

文学作品の表現の考察を通して、時代の変化や日本人の生き方を理解するとともに、看護学 生、社会人に必要な言葉の知識を増やし、文章作成能力の向上を目的とする。

## ≪成績評価の方法≫

レポート及び筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

随時参考文献提示

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	グリム童話「灰かぶり」	講義
2	2	芥川龍之介の妻と手紙	講義
3	2	ハンセン病の歴史と文学① 文章を書く基本①	講義
4	2	ハンセン病の歴史と文学② 文章を書く基本②	講義
5	2	北条民雄「いのちの初夜」 「伝記調べ」解説	講義
6	2	浦島太郎の文学史① 「伝記調べ」日程決め	講義
7	2	浦島太郎の文学史②	講義
8	2	浦島太郎の文学史③	講義
9	2	結核の文学史①	講義
10	2	「伝記調べ」発表① 結核の文学史② 文章を書く基本③	講義
11	2	「伝記調べ」発表② 堀辰雄「風立ちぬ」 文章を書く基本④	講義
12	2	太宰治と山崎富栄① 文章を書く基本⑤	講義
13	2	太宰治と山崎富栄② 文章を書く基本⑥	講義
14	2	小泉八雲「耳なし芳一」	講義
15	2	小泉八雲「人形の墓」	講義

科目名	人間関係論	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

担当教員: 非常勤講師

## ≪科目目標≫

人間関係に関する基礎理論及び良好な人間関係を築くためのスキルを、講義・演習を通して 学ぶ

## ≪成績評価の方法≫

レポート

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

随時参考文献提示

## ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	人間関係論とは 人間関係の中の自己と他者	講義・演習
2	2	ポジティブ思考と自尊感情	講義・演習
3	2	コミュニケーション	講義・演習
4	2	自己概念	講義・演習
5	2	アサーション	講義・演習
6	2	傾聴	講義・演習
7	2	対人関係	講義・演習
8	2	自己肯定感	講義・演習
9	2	コーチング	講義・演習
10	2	自分の強み	講義・演習
11	2	グループ・ダイナミックス (1) (コンテントとプロセス)	講義・演習
12	2	グループ・ダイナミックス (2) (懸念、フィードバック)	講義・演習
13	2	グループ・ダイナミックス (3) (コンセンサス)	講義・演習
14	2	グループ・ダイナミックス (4) (価値観)	講義・演習
15	2	ポジティブ・アプローチ	講義・演習

科目名	スポーツ科学 I	科目区分	基礎分野	授業の方法	実技
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年前期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

スポーツを通して、心身のバランスをとり、自己の健康・体力を保持増進する

## ≪成績評価の方法≫

実技試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

随時参考文献提示

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

#### ≪履修に当たっての留意点≫

運動ができる服装:トレーニングウエア、室内運動靴

髪は縛るかまとめること 体育館で授業を行う

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	実技ガイダンス 卓球・バドミントン・バレーボール	実技
2	2	卓球・バドミントン・バレーボール	実技
3	2	卓球・バドミントン・バレーボール	実技
4	2	卓球・バドミントン・バレーボール	実技
5	2	卓球・バドミントン・バレーボール	実技
6	2	卓球・バドミントン・バレーボール	実技
7	2	卓球・バドミントン・バレーボール	実技
8	1	バドミントン・バレーボール	実技

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年前期

#### 担当教員:非常勤講師

#### ≪科目目標≫

身体運動と健康のかかわりを科学的に理解し、生活に対応する運動のあり方を身につける。 「体力について」「体力を測定評価」するという2点に着目して授業をすすめる。健康・体力と は何かについて理解することを目的とする。そして、今の自分の体力を測定するとともに自他 と比較してどうなのか正しく比較・検討できること(測定→集計→評価)を目的とする。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験の点数80%と授業内の活動点(レポート)20%で評価する。

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

教科書は指定せず、授業内で配布するプリントで授業をすすめる。

#### 参考書 (購入義務なし)

- ① スポーツ測定評価学―からだの形と働きを測る 文化書房博文社
- ② 新体力テスト―有意義な活用のために ぎょうせい

## ≪授業外における学習方法≫

授業内で説明する。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

授業内での演習や作業があるのでできるだけ全出席を目指してください。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	体力と健康の概念〜健康とは何か?体力とは何か?〜	講義
2	2	新体力テストを実施	演習
3	2	新体力テストの結果分析	講義
4	2	持久系運動能力の評価① (vo2max、酸素摂取量、RMR、基礎代謝量)	講義
5	2	持久系運動能力の評価② (Met、Ex)	講義
6	2	持久系運動能力の評価 (計算問題)	演習
7	2	測定実習(歩行・走行パフォーマンスの計測)	演習
8	1	まとめ、復習	講義

科目名	心理学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	1年後期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

人間の心理を理解するために必要な基礎的な事項について学ぶ

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

改訂 現代心理学の基礎と応用 -人間理解と対人援助- 樹村房

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	心理学とは①(動機は何か)	講義
2	2	心理学とは②(看護の心)	講義
3	2	人間理解とは	講義
4	2	感覚、知覚の心理	講義
5	2	記憶の心理	講義
6	2	感情・動機の心理、知能の心理	講義
7	2	性格、知能の心理①(理論)	講義
8	2	性格、知能の心理②(心理検査、性格検査)	講義
9	2	現代社会とストレス、感情、情緒など	講義
10	2	現代社会とストレス:日常的ストレス、中間確認テスト	講義
11	2	現代社会とストレス:ストレス反応、ストレスチェック	講義
12	2	発達の心理	講義
13	2	社会の心理	講義
14	2	カウンセリング	講義
15	2	まとめ	講義

科目名	英語	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

担当教員:非常勤講師

#### ≪科目目標≫

日常生活及び看護の場面に必要な英語の会話力を身につける

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ホスピタルイングリッシュ Vital Signs 〈改訂版〉 南雲堂

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	自己紹介、ネームカードの作成、授業内容と方法についての説明	講義
2	2	Unit1 Listening, Translation, Reading practice, <b>II</b> check Your Understnading	講義
3	2	Unit1 QuizNo.1 III Look At This Role play	講義
4	2	Unit 1 QuizNo. 2 V substitution. VI Do you know? Unit 2 Listening Translation	講義
5	2	Unit2 QuizNo.3 Reading practice, Role play, IIILook At This	講義
6	2	Unit2 QuizNo.4 IVControlled Practice Unit3 Listening	講義
7	2	Unit3 QuizNo.5 Translation, Reading practice, IIILook At this	講義
8	2	Unit3 QuizNo.6 Role play, IV Controlled Practice	講義
9	2	Unit4 Listening, Translation, Reading practice, IIILook At this	講義
10	2	Unit4 Role play, IVControlled Practicel. V Substitution	講義
11	2	Unit5 QuizNo7, Listening, Translation, IIILook At This	講義
12	2	Unit5 QuizNo8, Role play, VI Do you know? VI Time Out	講義
13	2	Unit6 QuizNo9, Listening, Translation, Reading practice, III Look At This	講義
14	2	Unit6 QuizNo10 Role play, IVControlled Practice	講義
15	2	Unit7 ⅢLook At This, Unit1~7 のまとめと期末テストについて	講義

科目名	社会学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

社会的存在「である人間を理解するとともに、地域社会での生活システムの中で生活して いる人間を理解する

## ≪成績評価の方法≫

レポート

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

随時参考文献

## ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	I. 明治民法の家族法 明治民法の家族制度と女性 明治民法	講義
2	2	I. 明治民法の家族法 明治民法の家制度と女性 法律適用の男女差	講義
3	2	I. 明治民法の家族法 新しい女性の登場と家族法	講義
4	2	I. 明治民法の家族法 戦後改革と家族法	講義
5	2	Ⅱ. 現代社会における家族 家族とは、家族の変容、前近代家族	講義
6	2	Ⅱ. 現代社会における家族 家族の変容、近代家族、 現代家族	講義
7	2	Ⅲ. 結婚 結婚とは、変化する結婚	講義
8	2	Ⅲ. 結婚 法律婚と非法律婚、夫婦別性選択制	講義
9	2	Ⅲ. 結婚 夫婦同氏と戸籍 IV.離婚 実離婚の実態	講義
10	2	IV. 離婚 離婚の法制度	講義
11	2	IV. 離婚 判例変更	講義
12	2	プレゼンテーション	講義
13	2	プレゼンテーション	講義
14	2	プレゼンテーション	講義
15	2	プレゼンテーション	講義

科目名	生物と環境	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

生物としての人間が環境を離れては存在しえないことを理解し、環境保全への努力が心身の トータルな健康的生活へ至る重要項であることを学ぶ

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

随時参考文献提示

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	環境指標生物の定義及び理解するために必要な概念について	講義
2	2	環境指標生物(タンポポ等)について生態学的知見を交えて	講義
3	2	大気汚染の指標となる環境指標生物ー生態学的知見を交えて	講義
4	2	水質汚濁の指標生物について一生態学的知見を加えながら	講義
5	2	環境指標生物の総括	講義
6	2	環境指標生物が進歩した理由としての日本の公害問題について	講義
7	2	生物多様性の意味と生態系の多様性と種の多様性について	講義
8	2	生物多様性のなかの種の多様性と遺伝子の多様性について	講義
9	2	生物多様性条約など生物多様性保全の人間社会における展開	講義
10	2	生物多様性の主流化と日本の生物多様性の4つの危機	講義
11	2	生態系の構造と機能、生物濃縮化現象について	講義
12	2	環境ホルモン問題、生態系における水の循環について	講義
13	2	生態系における炭素、窒素の循環と地球温暖化について	講義
14	2	世界の動物地理区と大陸移動説について	講義
15	2	外来生物について	講義

科目名	ポルトガル語	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

担当教員: 非常勤講師

#### ≪科目目標≫

日常生活に使われる基本的会話と発音を身につける

異文化との交流をとおして国際化に対応する基本的な能力を養う

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験、小テスト

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

『Descobrindo o Brasil』ブラジル・ポルトガル語入門 同学社

必要に応じて、補助プリントを配布

### ≪授業外における学習方法≫

各回の授業内容をこまめに復習すること。また、宿題(練習問題)をとくことで学習内容が 理解できているか確認しておくこと。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

初めて学習する言語であるため、自宅での学習が必要です。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	ブラジルの文化と生活	講義
2	2	ポルトガル語の文字と発音	講義
3	2	ポルトガル語の名詞の特徴、あいさつ	講義
4	2	Ser 動詞の活用と用法	講義
5	2	形容詞とその特徴	講義
6	2	自己紹介、自分以外の人を紹介する練習、受付での会話	講義
7	2	-ar、-er、-ir 動詞(規則活用変化動詞、現在形)の活用の仕方と用	講義
•	2	い方と前置詞	
8	2	命令・禁止の表現	講義
9	2	Estar 動詞の活用とその用い方 estar com~で肉体的・精神的な	講義
9	2	状態を表す	
10	2	体の部位や症状の表現	講義
11	2	○が欲しい/○がしたい	講義
12	2	数詞・日付の表現	講義
13	2	数詞・時間の表現、TER 動詞(所有・年齢・義務を表す)①	講義
14	9	TER 動詞(所有・年齢・義務を表す)②	講義
<b>14</b> 2		ベッドサイドにおける簡単な会話	
15	2	まとめ	講義

科目名	論理学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3年後期

担当教員: 非常勤講師

## ≪科目目標≫

論理的道筋に沿った思考の形成及び構造を理解し、論理的思考法を身につける

## ≪成績評価の方法≫

レポート

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

随時参考文献提示

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	論理的思考・資料の批判的読解	講義
2	2	数量表現の扱い	講義
3	2	広告の表現	講義
4	2	相関と因果	講義
5	2	誇大な表現	講義
6	2	論説文の読みとり	講義
7	2	論理的表現の作成	講義
8	1	論理的表現の読解	講義

科目名	文化人類学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3年後期

担当教員: 非常勤講師

## ≪科目目標≫

異文化における人々の生活習慣、健康・病気についての考え方を学ぶ

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

現代文化のフィールドワーク入門 ミネルヴァ書房

## ≪授業外における学習方法≫

事前に教材等を予習して授業に臨む。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

授業時には毎回、小レポートを実施します。感想・意見・疑問など何でもかまわないので、 受講者の積極的な参加を期待します。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	人間と文化	講義
2	2	質的研究とエスノグラフィー	講義
3	2	個人・家族・家族をこえたつながり	講義
4	2	人生と通過儀礼	講義
5	2	宗教と世界観	講義
6	2	健康と医療	講義
7	2	いのちと文化	講義
8	1	まとめ	講義

科目名	人体の構造と機能 I (細胞)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1年前期

## 担当教員: 堀 寿美枝

#### ≪科目目標≫

看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能を理解する。特に細胞の機能と構造、 諸臓器・組織の内部環境の調節、外部環境の防御について理解する。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験、レポート

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ①ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版
- ②生物のしくみ標準テキスト 第3版 新しい解剖整理 医学映像教育センター

### ≪授業外における学習方法≫

課題学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	ガイダンス	講義
2	2	1. 人体を学ぶために基礎知識 1)解剖学的用語	講義
3	2	2)細胞と組織	講義
4	2	2. 内臓機能の調節	講義
5	2	1)自律神経による調節 2)内分泌による調節	講義
6	2	3)内分泌系 (視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎)	講義
7	2	4) ホルモン分泌の調整	講義
8	2	3. 身体機能の防御と適応	講義
9	2	1)皮膚の構造と機能 2)免疫系(生体の防御機構)	講義
10	2	3)体温とその調節	講義

科目名	人体の構造と機能 I (生殖)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年前期

担当教員:加藤 恵美

#### ≪科目目標≫

学習目的:看護師が看護実践をするために必要な生殖器の構造と機能について理解する

学習目標:人間の生命の誕生に興味をもち、人の生殖機能についての知識を深め、子孫を残す

仕組みについて理解する

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版

②生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター

参考図書:系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

## ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	男性生殖器の構造と機能	講義
2	2	女性生殖器の構造	講義
3	2	女性生殖器の機能①	講義
4	2	女性生殖器の機能②・生命発生の過程① (生殖細胞)	講義
5	2	生命発生の過程② (受精と着床・生殖器の分化と発達)	講義

科目名	人体の構造と機能Ⅱ(呼吸)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (14/30)	開講時期	1年前期

担当教員:中島 加容子

#### ≪科目目標≫

学習目的:看護師が看護実践をするために必要な呼吸器の構造と機能について理解する

学習目標:換気・ガス交換・呼吸調節に関わる呼吸器の構造と機能を理解する

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版

②生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター

### ≪授業外における学習方法≫

事前学習の課題を行う。必ず教科書を読みながら、プリントを整理してくる。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

事前学習を行うことで分からないことを明確にして授業に臨み理解につなげる。 復習を行い、次回に行う小テストに備える。

回数	時間数	内 容	教授方法
		人間にとって息をする意味	講義
1	2	呼吸器系の役割	
		呼吸器系の機能と構造(鼻と鼻腔、咽頭、喉頭、気管と主気管)	
2	2	呼吸器系の機能と構造(肺と胸膜・胸膜腔)	講義
3	2	呼吸のプロセス(換気)	講義
_	2	肺機能(排気量分画・努力曲線・フローボリューム曲線)	講義
4	Δ	換気障害の理解	
5	2	ガス交換とガスの運搬	講義
6	2	酸塩基平衡、酸塩基平衡の異常	講義
7	2	呼吸の調節、呼吸のさまざまな異常	講義

科目名	人体の構造と機能Ⅱ(循環器・血液)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (16/30)	開講時期	1年前期

担当教員:加藤 恵美

#### ≪科目目標≫

学習目的:看護師が看護実践をするために必要な循環器・血液の構造と機能について理解する

学習目標:1. 血液の組成およびそれぞれの働きを理解する

2. 生体内の物質の流通路としての心臓・血管系の構造とその役割を理解する

3. 一般社会、医療の中で生体情報として用いられる血圧についてその意味と調節 機構を理解する

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版

②生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	內 容	教授方法
1	2	血液①(血液の組成と機能、造血、赤血球・白血球)	講義
2	2	血液②(血小板、血液の凝固と線維素溶解、血漿タンパク)	講義
3	2	血液③(血液型)	講義
4	2	循環器①(心臓の構造と機能、体循環と肺循環、心音)	講義
5	2	循環器②(心臓の内腔と血液の流れ、心臓壁、冠状動脈)	講義
6	2	循環器③ (刺激伝導系、血管の構造)	講義
7	2	循環器④(全身の動脈・静脈、脈拍、リンパ)	講義
8	2	循環器⑤ (心拍出量と血圧、血圧の調節機構)	講義

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

担当教員:西田 朱由美

#### ≪科目目標≫

学習目的:看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能について理解する

学習目標:摂取した食物がどのように消化吸収し、そして利用されるのか、消化器系の構造と

機能を理解する。体液を調整する役割を果たす腎臓の機能、尿排泄の仕組みを理解

する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版

②生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理 医学映像教育センター

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	消化管の構造	講義
2	2	口・咽頭・食道の構造と機能・嚥下のメカニズム	講義
3	2	胃の構造と機能	講義
4	2	小腸の構造と機能	講義
5	2	栄養素の消化と吸収	講義
6	2	食物が消化吸収されるまでの過程	講義
7	2	大腸の構造と機能・排便のメカニズム	講義
8	2	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義
9	2		講義
10	2	腹膜	講義
11	2	腎臓・糸球体の構造と機能	講義
12	2	尿細管の構造と機能	講義
13	2	傍糸球体装置・クリアランスと糸球体濾過量	講義
14	2	排尿路	講義
15	2	体液の調節・酸塩基平衡	講義

科目名	人体の構造と機能IV	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

担当教員:河合 みゆき

#### ≪科目目標≫

学習目的:看護師が看護実践するために必要な脳神経の構造と機能について理解する。

また、生活の中で外部からの刺激を受け止める感覚系の役割について理解する。

学習目標:生体の情報を感知し、発信しながら生体の環境適応を可能にし、恒常性を維持する

脳・神経系と感覚器の構造と機能を理解する。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版

②生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター

## ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内容	教授方法
		神経系の構造と機能	講義
1	2	神経系の分類、神経系の構造、中枢神経と末梢神経、	
		神経細胞・支持細胞とは	
2	2	ニューロンでの興奮と伝達とシナプスでの興奮の伝達	講義
3	2	中枢神経の構造と機能1 大脳の構造	講義
4	2	中枢神経の構造と機能2 大脳の機能	講義
5	2	中枢神経の構造と機能3 間脳の構造と機能	講義
o o	2	脳幹の構造と機能 小脳の構造と機能	
6	2	中枢神経の構造と機能4 脊髄の構造と機能(脊髄反射)	講義
7	2	中枢神経系を守る組織と機能	講義
	2	髄膜、脳室と脳脊髄液、脳の血管と血液脳関門	
8	2	末梢神経系の構造と機能1 脊髄神経の構造と機能	講義
9	2	末梢神経系の構造と機能2 脳神経の構造と機能	講義
10	2	生体のリズム 睡眠と覚醒	講義
11	2	感覚器系の構造と機能	講義
11	2	1. 眼の構造と機能	
12	2	2. 耳の構造と機能	講義
13	2	3. 味覚・嗅覚	講義
14	2	4. 痛覚	講義
15	2	5. 体性感覚と内臓感覚	講義

科目名	人体の構造と機能V	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年前期

担当教員:加藤 利江

#### ≪科目目標≫

学習目的:看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能について理解する

学習目標:私たちの体は中枢神経の指令を受けて動き、移動し、様々な活動を行いながら日常

生活を営んでいる。この体を支え、運動し、活動を行う骨格や筋肉の構造と機能を

理解する。

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

①ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版

②生物のしくみ標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター

#### ≪授業外における学習方法≫

毎回予習をして、授業に臨んでください。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	体を動かす仕組み①:骨の構造と種類、働き	講義
2	2	体を動かす仕組み②:関節の構造と種類	講義
3	2	体を動かす仕組み③:筋の構造と種類、働き	講義
4	2	体を動かす仕組み④:筋収縮のエネルギー代謝	講義
5	2	「姿勢を保つ」骨・関節と筋肉	講義
6	2	「腕を動かす」骨・関節と筋肉	講義
7	2	「足を動かす」骨・関節と筋肉	講義
8	1	「顔」の骨・関節と筋肉	講義

科目名	微生物学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

主な微生物の特徴を知り、感染を予防することと、人体への作用を理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 臨床微生物・医動物 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	病原微生物の種類と特徴、感染に関する用語	講義
2	2	経路別感染	講義
3	2	滅菌と消毒	講義
4	2	感染症の発生	講義
5	2	感染症法 標準予防策と感染経路別予防策 予防接種	講義
6	2	細菌総論 ブドウ球菌属 常在細菌	講義
7	2	連鎖球菌属、腸球菌属 ナイセリア属、緑膿菌 他	講義
8	2	プルセラ属、バルトネラ菌、フランシセラ属、ボルデテラ属 他	講義
9	2	ビブリオ属~コリネバクテリウム属、抗酸菌、放射菌 他	講義
10	2	ウェルシュ菌~グラム陰性嫌気性菌、スピロヘータ 他	講義
11	2	真菌による感染症、原虫の特徴、原虫による感染症	講義
12	2	ウイルスの特徴、痘瘡、ウイルス~インフルエンザウイルス 他	講義
13	2	ムンプスウイルス〜ジカウイルス	講義
14	2	日本脳炎ウイルス~H I V	講義
15	2	肝炎ウイルス、プリオン病、寄生虫、国家試験問題紹介	講義

科目名	健康と食生活	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (14/30)	開講時期	1年前期

## 担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

生活者の健康を維持するために必要な栄養素の構造と性質を理解し、酵素の働き・代謝について理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進④ 臨床栄養学 メディカ出版

### ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	臨床栄養学の基礎知識	講義
2	2	食品成分と食事摂取基準	講義
3	2	日常生活と栄養①	講義
4	2	日常生活と栄養②	講義
5	2	療養生活と栄養	講義
6	2	疾患別の栄養食事療法①	講義
7	2	疾患別の栄養食事療法②	講義

科目名	健康と食生活	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (16/30)	開講時期	1年前期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

生活者の健康を維持するために必要な栄養素の構造と性質を理解し、酵素の働き・代謝について理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	エネルギーと ATP、アミノ酸の構造、ペプチド結合	講義
2	2	タンパク質の立体構造と病気、酵素の分類	講義
3	2	酵素の影響因子	講義
4	2	アルコール代謝、アイソザイムと検査、糖の構造	講義
5	2	二糖類、多糖類 糖の代謝(消化)	講義
6	2	解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、酸化的リン酸化	講義
7	2	糖新生、ペントースリン酸回路、血糖値の調整、脂質	講義
8	2	中性脂肪、脂肪の分解と合成、リポ蛋白質、コレステロール代謝	講義

科目名	健康管理論	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年前期

担当教員: 後藤 ゆかり

#### ≪科目目標≫

学習目的:社会における人々の健康に関する意識状況を知る。また、自己の健康に関心をもち、 適切な健康管理を理解する。

学習目標:1. WHO の健康の定義の概要を理解する。

- 2. 健康政策であるプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、健康日本 21 の 概要を理解する。
- 3. 健康に影響を及ぼす要因を理解し、その対応を考える。
- 4. 自分の健康を的確に把握し、適切に健康管理する必要性を理解する。
- 5. 健康問題へのアプローチの方法としての健康行動理論を理解する。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験・レポート

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 医歯薬出版

#### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	1. 健康とは	講義・演習
2	2	2. 健康の定義	講義・演習
3	2	3. 健康に影響する因子	講義・演習
) 	2	4. 健康政策と健康教育	
4	2.	5. 健康行動理論① 健康信念モデル、自己効力感、	講義
4	2	変化のステージモデル	
5	2.	5. 健康行動理論② 計画的行動理論、ストレスとコーピング、	講義
o	2	ソーシャルサポート、コントロール所在	
6	2	5. 健康行動理論③ 7つの理論のまとめと活用	講義
7	2	6. 発達段階からみた健康 ライフサイクルと健康	講義
	<u> </u>	7. 健康に影響を及ぼす要因への対応	
8	1	8. 自分の健康について考える まとめ	講義

科目名	看護における人体の 構造と機能	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年前期

担当教員:加藤 利江

#### ≪科目目標≫

学習目的:日常生活行動の視点から人体の構造と機能を統合、探究する

学習目標:1. 自分の体を見つめ、人体の疑問を追求することができる。

2. 人体の構造と機能の知識を根拠に、日常生活行動が理解できる。

#### ≪成績評価の方法≫

演習への取り組み姿勢・発表・レポートを総合的に評価 (ルーブリック)

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版
- ② 生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター
- ③ プロジェクト学習の基本と手法 教育出版

## ≪授業外における学習方法≫

研究テーマを意識しながら、人体の構造と機能の講義を受ける。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

プロジェクト学習のため、40ポケットのファイルにファイリングし授業を行っていく。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	1	授業の進め方、評価の方法についてのガイダンス	講義
		テーマを決める:「息をする」「食べる」「排泄する」「眠る」	個人ワーク
2	2	自分の体を見つめ、日頃から疑問に思っているテーマを選び、ビ	
		ジョン・ゴールを考える。	
3	2	探求するテーマについての調べ学習	演習
3	2	(自分の疑問をスッキリ解消に向けてとことん調べる)	
4	2	テーマごとにチームを作成し、発表に向けて準備	演習
4	2	(同じ疑問を持った仲間同士で、考える)	
		発表に向けて準備(調べ学習)	演習
5	2	(疑問の解消に至った経緯を解剖生理の知識を掘り下げて、じっ	
		くり説明して、他の人にどう伝えるかを考えよう)	
6	2	プレゼンテーション資料の作成	演習
7	2	「息をする」「食べる」「排泄する」「眠る」のテーマごとの発表と	演習
0	0	学びの共有 (個人の知を全体の知にしていく)	演習
8	2	疑問解決に至った、人体の構造と知識を再確認する(成長報告書)	

科目名	多職種理解と連携	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	1年前期

担当教員: 加藤 利江、 非常勤講師

#### ≪科目目標≫

医療の中で活躍する多職種の職務・職域・具体的な仕事内容を知り、自らの専門職と多職種と の連携について考える

## ≪成績評価の方法≫

レポート ・授業参加度

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 メディカ出版

### ≪授業外における学習方法≫

#### ≪履修に当たっての留意点≫

講師に対して1回以上質問できるように考えてくる。

基礎看護学実習Iでは、受け持ち患者に関わる多職種を意識する。

回数	時間数	内 容	教授方法
	0	看護師と関係職種、医療の場における多職種連携	講義
1	2	1) 医療施設で働く多職種 (チーム医療)	演習
2	2	2) 他職種のことを調べてみよう。	ワーク
	Δ	他職種の専門性	
		診療放射線技師-職務と職域、仕事の実際、診療放射線技師とチーム	講義
3	2	医療< <b>診療放射線技師</b> >	
3	2	臨床検査技師-職務と職域、仕事の実際、臨床検査技師とチーム医療	
		< 臨床検査技師 >	
	2	薬剤師―職務と職域、仕事の実際、薬剤士とチーム医療	講義
4		< 薬剤師 >	
		管理栄養士とは一職務と職域、仕事の実際、栄養管理室とチーム医療	
		< 管理栄養士 >	
		理学療法士とは一職務と職域、仕事の実際、理学療法士とチーム医療	講義
5	2	< 理学療法士 >	
		退院調整看護師の役割―仕事の実際、多職種との連携	
		< 退院調整看護師 >	
6	2	基礎看護学実習Iで受け持った患者を取り巻く多職種のマップ作り	演習
7	2	を実施し、発表する。	
	_	1.1.) (Ambot 1.5.) + 14 Tattit 5./((b))	5.44- A&
8	1	まとめ(多職種との連携―看護師の役割)	講義

科目名	病理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

## 担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

人体に起こる病因と病変のうち、循環障害・炎症・腫瘍・免疫について基礎的な知識を学び、 健康水準や健康障害の特徴・進行の過程、病理検査を理解する

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

系統看護学講座:疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 医学書院

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	病理診断の実際	講義
2	2	病理学で学ぶこと	講義
3	2	細胞、組織の障害と修復	講義
4	2	循環障害①	講義
5	2	循環障害②、まとめ	講義

科目名	病理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

## 担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

人体に起こる病因と病変のうち、循環障害・炎症・腫瘍・免疫について基礎的な知識を学び、 健康水準や健康障害の特徴・進行の過程、病理検査を理解する

### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

系統看護学講座:疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 医学書院

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	炎症について①	講義
2	2	炎症について②、免疫①	講義
3	2	免疫②	講義
4	2	免疫③、感染症	講義
5	2	感染、代謝異常	講義

科目名	病理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

人体に起こる病因と病変のうち、循環障害・炎症・腫瘍・免疫について基礎的な知識を学び、 健康水準や健康障害の特徴・進行の過程、病理検査を理解する

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

系統看護学講座:疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 医学書院

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	病理診断の実際、老化と死	講義
2	2	先天異常と遺伝子異常	講義
3	2	腫瘍①	講義
4	2	腫瘍②	講義
5	2	腫瘍③	講義

科目名	疾病と治療 I (循環器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

## 担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

循環器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念 を理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護② 循環器 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	循環器領域の構造と機能	講義
2	2	不整脈	講義
3	2	高血圧	講義
4	2	心不全	講義
5	2	虚血性心疾患	講義

科目名	疾病と治療 I (脳神経系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

## 担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

脳神経の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念 を理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑤ 脳・神経 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	神経の解剖、意識障害、頭部外傷	講義
2	2	脳梗塞、TIA(一過性脳虚血発作)、脳出血、片頭痛	講義
3	2	クモ膜下出血、髄膜炎、転換、神経痛、顔面神経麻痺他	講義
4	2	パーキンソン病、パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症他	講義
5	2	認知症、多発性硬化症、重症筋無力症、モヤモヤ病	講義

科目名	疾病と治療 I (呼吸器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

## 担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

呼吸器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念 を理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護① 呼吸器 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	呼吸器疾患の症状	講義
2	2	感染症について	講義
3	2	結核について	講義
4	2	慢性閉塞性肺疾患(COPD)について	講義
5	2	肺がんについて	講義

科目名	疾病と治療Ⅱ(消化器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

## 担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

消化器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概要 を理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護③ 消化器 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	消化器の構造と機能、食道疾患①	講義
2	2	食道疾患②、胃疾患、大腸疾患①	講義
3	2	大腸疾患②、胃ろう	講義
4	2	肝臓の疾患について	講義
5	2	胆嚢、膵臓の疾患について	講義

科目名	疾病と治療Ⅱ(血液・造血器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

血液・造血器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概要を理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護④ 血液/アレルギー・膠原病/感染症 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	白血病	講義
2	2	悪性リンパ腫	講義
3	2	血液、輸血、造血幹細胞移植	講義
4	2	血小板、凝固異常	講義
5	2	多発性骨髄腫、造血不全	講義

科目名	疾病と治療Ⅱ(内分泌・代謝)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

## 担当教員:非常勤講師

## ≪科目目標≫

内分泌・代謝の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概要を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護® 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	内分泌総論、下垂体の疾患	講義
2	2	甲状腺、副甲状腺の疾患	講義
3	2	副腎の疾患、内分泌救急	講義
4	2	内分泌・代謝疾患について①	講義
5	2	内分泌・代謝疾患について②	講義

科目名	疾病と治療Ⅲ(運動器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

# 担当教員:非常勤講師

# ≪科目目標≫

骨・関節の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概 念を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑦ 運動器 メディカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	運動器について、骨折について	講義
2	2	外傷疾患とその看護	講義
3	2	関節リウマチ	講義
4	2	人工関節の看護	講義
5	2	脊椎疾患	講義

科目名	疾病と治療Ⅲ(腎臓)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

# 担当教員:非常勤講師

# ≪科目目標≫

腎臓の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を 理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護® 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	腎臓の構造と働き	講義
2	2	尿異常、水・電解質など	講義
3	2	腎泌尿器系疾患ほか	講義
4	2	腎不全、腎疾患ほか	講義
5	2	問題、演習	講義

科目名	疾病と治療Ⅲ(泌尿器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年後期

# 担当教員:非常勤講師

# ≪科目目標≫

泌尿器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念 を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護® 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内  容	教授方法
1	2	尿路感染症	講義
2	2	尿路結石症、尿路管理	講義
3	2	尿路の通過傷害と機能障害	講義
4	2	尿路、性器の腫瘍①	講義
5	2	尿路、性器の腫瘍②	講義

科目名	看護にいかす薬理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年後期

# 担当教員:非常勤講師

# ≪科目目標≫

医療における薬物療法について知るとともに代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 メディカ出版
- ② 今日の治療薬 2022 南江堂

#### ≪授業外における学習方法≫

自己学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	薬理学の概要、薬物と法令、薬物の作用	講義
2	2	薬物効果に影響を及ぼす要因 用量、相互作用、依存、アレルギー	講義
3	2	薬物の適用方法、体内動態、副作用	講義
4	2	処方箋と医薬品の剤形、取り扱いと計量、ジェネリック医薬品	講義
5	2	末梢神経作用薬	講義
6	2	中枢神経作用薬	講義
7	2	中枢神経作用薬、演習問題	講義
8	2	オータコイド・アレルギー用薬①	講義
9	2	オータコイド・アレルギー用薬②	講義
10	2	心臟血管系作用薬	講義
11	2	血液造血器系作用薬	講義
12	2	消化器系作用薬	講義
13	2	生殖器系作用薬	講義
14	2	物質代謝作用薬	講義
15	2	生物学的製剤と診断用薬	講義

科目名	疾病と治療Ⅳ(理学療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2年前期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

運動障害や高次機能障害に対する理学療法の特徴と生体の反応を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

系統看護学講座:別巻 リハビリテーション看護 医学書院

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	リハビリテーションの概論と基礎	講義
2	2	運動器系の障害とリハビリテーション	講義
3	2	杖・車椅子の操作実習	演習
4	2	中枢神経障害のリハビリテーション	講義
5	2	呼吸器系障害のリハビリテーション	講義

科目名	疾病と治療IV(言語療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2年前期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

運動障害や高次機能障害に対する言語療法の特徴と生体の反応を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

系統看護学講座:別巻 リハビリテーション看護 医学書院

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	言語聴覚療法概論 嚥下のメカニズム	講義
2	2	嚥下評価、間接訓練	講義
3	2	嚥下直接訓練、聴覚障害	講義
4	2	高次脳機能障害、嚥下体操	講義
5	2	失語症・構音障害	講義

科目名	疾病と治療IV(作業療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	2年前期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

運動障害や高次機能障害に対する作業療法の特徴と生体の反応を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

系統看護学講座:別巻 リハビリテーション看護 医学書院

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	作業療法についての概論	講義
2	2	作業療法の実際 ①食事、ADL・IADL	講義
3	2	作業療法の実際 ②排泄、更衣、整容、入浴動作	講義
4	2	作業療法の実際 起居・移乗・移動	講義
5	2	作業療法の実際 ADL評価法、作業療法と看護の連携	講義

科目名	疾病と治療V (手術)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (4/30)	開講時期	2年前期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

手術が生体に与える影響について理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医歯薬出版

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	腹腔鏡手術について	講義
2	2	開腹手術と周手術期の看護(胃がん・大腸がん)	講義

科目名	疾病と治療V (麻酔)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2年前期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

麻酔が生体に与える影響について理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	麻酔について、麻酔の種類と合併症、術前・術後訪問	講義
2	2	麻酔について、回復室での全身管理	講義
3	2	麻酔について、手術および麻酔侵襲と生体反応	講義
4	2	麻酔について、術後合併症の予防	講義
5	2	総括	講義

科目名	疾病と治療V(ME)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位 (時間)	1 (16/30)	開講時期	2年前期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

主な医療機器の原理を理解する。

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

随時参考資料配布

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	輸液ポンプ・シリンジポンプの原理・取り扱い	講義・演習
2	2	電気メス、低圧持続吸引器の取り扱い	講義・演習
3	2	酸素飽和度測定装置取り扱い	講義・演習
4	2	HFT取り扱い方法	講義・演習
5	2	NPPV/人工呼吸器の取り扱い	講義・演習
6	2	生体情報モニタの取り扱い	講義・演習
7	2	除細動器・ペースメーカの取り扱い	講義・演習
8	2	IABP, PCRSの取り扱い	講義・演習

科目名	疾病と治療VI(女性生殖器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (8/15)	開講時期	2年前期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

女性生殖器系の健康障害と治療について理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 メディカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	女性生殖器の構造と内分泌機能、婦人科診察、処置、検査	講義
2	2	婦人科良性疾患	講義
3	2	婦人科悪性疾患	講義
4	2	乳がん	講義

科目名	疾病と治療VI(放射線治療)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (7/15)	開講時期	2年前期

担当教員:非常勤講師

# ≪科目目標≫

放射線治療の基礎的知識を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

系統看護学講座:別巻 臨床放射線医学 医学書院

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	画像診断と看護	講義
2	2	X線を使用しない画像診断と I V R	講義
3	2	放射線治療と看護	講義
4	1	放射線による身体への影響	講義

科目名	疾病と治療VII(免疫・アレルギー)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (8/15)	開講時期	2年後期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

免疫・アレルギー系の健康障害と治療の概要を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護④ 血液/アレルギー・膠原病/感染症 メディカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	免疫・アレルギーの基礎	講義
2	2	アレルギー疾患	講義
3	2	膠原病の基礎	講義
4	2	膠原病の臨床	講義

科目名	疾病と治療 <b>VII</b> (補完・代替療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (7/15)	開講時期	2年後期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

補完・代替療法の概要を学ぶ。西洋医学とは異なる切り口で、患者を全人的に捉え、自然 治癒力を引き出す療法について理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

基本としくみがわかる東洋医学の教科書 ナツメ社

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	食養生とミトコンドリア	講義
2	2	東洋医学の基礎・脂質	講義
3	2	自律神経と感情のしくみ	講義
4	1	自然医学の基礎	講義

科目名	社会福祉	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (14/30)	開講時期	2年前期

担当教員:非常勤講師

# ≪科目目標≫

全ての人々が健康でその人らしい生活が送れるよう支援するために、社会福祉の理念、 社会的な施策の動向、少子高齢化の現代社会とその福祉の実際、及び社会保障制度を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 メディカ出版

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	オリエンテーション・ 総論	講義
2	2	暮らしと社会福祉・社会保障	講義
3	2	ライフサイクルと社会福祉 (児童)	講義
4	2	ライフサイクルと社会福祉 (障害・難病)	講義
5	2	ライフサイクルと社会福祉(高齢者)	講義
6	2	生活と福祉・事例を通して	講義
7	2	まとめ	講義

科目名	社会福祉	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (16/30)	開講時期	2年前期

担当教員:非常勤講師

# ≪科目目標≫

全ての人々が健康でその人らしい生活が送れるよう支援するために、社会福祉の理念、 社会的な施策の動向、少子高齢化の現代社会とその福祉の実際、及び社会保障制度を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 メディカ出版

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	社会福祉、社会保障、福祉の実践	講義
2	2	社会資源の活用	講義
3	2	生活保護	講義
4	2	地域福祉	講義
5	2	年金制度、労災制度	講義
6	2	医療保険制度、雇用保険制度	講義
7	2	雇用保険制度、介護保険制度	講義
8	2	まとめ	講義

科目名	公衆衛生学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	3学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3年前期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

人間の健康と社会環境の関連を知り、組織的な公衆衛生活動について理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 メディカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	公衆衛生と健康の概念 環境と公衆衛生1	講義
2	1	環境と公衆衛生 2	講義
3	2	食と公衆衛生 感染症 1	講義
4	2	感染症 2 人口と公衆衛生	講義
5	2	非感染症 成人保健	講義
6	2	母子保健 学校保健	講義
7	2	医療保障制度 介護保険	講義
8	2	精神保健 産業保健	講義

科目名	関係法規	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3年後期

担当教員: 非常勤講師

# ≪科目目標≫

保健医療福祉に関する諸制度の概要を理解し、看護との関係を理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 メディカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	イントロダクション	講義
2	2	民事法の世界	講義
3	2	刑事法の世界	講義
4	2	行政法の世界	講義
5	2	労働法の世界	講義
6	2	看護をめぐるさまざまな方法	講義
7	2	問題演習	講義
8	1	まとめ、法、倫理	講義

科目名	看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

担当教員: 後藤 ゆかり

#### ≪科目目標≫

看護を学ぶにあたっての基礎となる看護の理念、看護の対象としての人間、看護の主要概念、 歴史的な変遷を理解し、看護の全体像を把握する。あわせて初期の段階での自分なりの考えを 整理する。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験・レポート

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版 看護の基本となるものーヴァージニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版会 看護覚え書ー看護であること 看護でないことーフローレンス・ナイチンゲール 現代社

#### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	看護への導入 看護者の役割と必要とされる能力	講義
2	2	看護の対象である人間理解	講義・演習
3	2	健康の理解、環境と人間及び健康との関連	講義・演習
4	2	看護実践のための枠組み① ナイチンゲール看護論の理解	講義・演習
5	2	映像から見える看護実践①	講義
6	2	映像から見える看護実践②	講義・演習
7	2	看護実践のための枠組み② ヘンダーソン看護論の理解	講義・演習
8	2	看護実践のための枠組み③ "	講義・演習
9	2	看護実践のための枠組み④ 主な理論家の業績と看護概念	講義・演習
10	2	看護の法的基盤と教育制度	講義
11	2	看護の質の保証① 看護ケアの原則	講義・演習
12	2	看護の質の保証② 看護における倫理	講義・演習
13	2	看護の質の保証③ 看護をめぐる医療事故	講義・演習
14	2	看護の質の保証④ 根拠に基づいた看護	講義
15	2	看護の歴史的変遷と変化 これから求められる看護	講義・演習

科目名	基礎看護技術 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年前期

# 担当教員: 上田 麻衣

#### 実務経験のある教員による授業 ✓

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

#### ≪科目目標≫

人間関係を成立・発展させるために必要な基礎的コミュニケーション技術を身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験・レポート

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 I 基礎看護学② メディカ出版
- ② 仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版
- ③ 看護コミュニケーション基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院
- ④ プロジェクト学習の基本と手法 教育出版

# ≪授業外における学習方法≫

コミュニケーションに関する文献を集め、コミュニケーションについて学びを深めていく。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

プロジェクト学習に使用する2穴のリングファイルを準備する。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	コミュニケーションの概念	講義・演習
2	2	看護学でコミュニケーションを学ぶ意義	講義・演習
3	2	コミュニケーションの基本原理・構造とプロセス・種類とその概要	講義・演習
4	2	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション	講義・演習
5	2	看護の場面で効果的なコミュニケーション技術	講義・演習
	2	1) 社交的コミュニケーション・専門的コミュニケーション	冊找 1円日
6	2	2) コミュニケーションに必要な能力と態度・影響するもの	講義・演習
7	2	3) 医療・看護におけるコミュニケーション	講義・演習
	2	4) 良好なコミュニケーションに必要な技法	冊找 1円日
8	2	5) 積極的傾聴と共感	講義・演習
9	2	ロールプレイ リフレクション	
		実習で遭遇するコミュニケーション困難な状況への対応	演習
10	2	・コミュニケーション障害・実習でみかける困難な状況	
11	2	プロセスレコードについて	講義・演習
12	2	プロセスレコードを書いてみよう	<b>弗我</b> 伊日
13	2	実習でのプロセスレコードにて自己を振り返る	演習
14	2	実習でのプロセスレコードにて自己を振り返る	演習
15	2	アサーティブネスについて	講義・演習

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年後期

#### 担当教員: 住田 智亮

実務経験のある教員による授業 🗸

複数の臨床で経験してきたフィジカルアセスメントの技術とその根拠について、その経験を 活かした実践的な事例を含めた講義を行っている。

#### ≪科目目標≫

フィジカルアセスメントの目的・意義を理解する。対象の身体状況をアセスメントするため に必要なバイタルサインの測定技術を身につけ、対象者から得た身体の情報から基礎的な正常 異常の判断ができるよう学習を深める。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験、技術試験

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 I 基礎看護学② メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ メディカ出版
- ③ 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA

### ≪授業外における学習方法≫

自己学習、技術練習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	フィジカルアセスメントとは バイタルサインとは	講義
2	2	体温について 体温調節の技術	講義
3	2	呼吸に関するフィジカルアセスメント	講義
4	2	行がに関するフィンガル)とハアント	<b>严我</b>
5	2	フィジカルアセスメントの技術①	演習
6	2	体温測定 呼吸に関するフィジカルイグザミネーション 血液循環に関するフィジカルイグザミネーション (脈拍)	<b>華</b>
	_		講義
7	2	血液循環に関するフィジカルイグザミネーション(血圧)	講義
8	2	血液循環に関するフィジカルイグザミネーション(その他)	講義
9	2	フィジカルセスメントの技術②	演習
10	2	脈拍測定 血圧測定	供日
11	2	排泄と体液に関するフィジカルアセスメント	講義
12	2	フィジカルアセスメントの技術③	演習
12	2	腹部の聴診・触診・打診 下肢の浮腫の観察	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
13	2	症状に合わせたフィジカルアセスメントの活用	講義
14	2	バイタルサイン測定とアセスメント	講義・演習
15	9	バイタルサイン測定の技術試験	技術試験
15	2	まとめ	講義

科目名	基礎看護技術Ⅲ(安全)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (14/30)	開講時期	1年前期

#### 担当教員: 溝口 和美

実務経験のある教員による授業

 $\checkmark$ 

医療機関において看護師として実務経験のある教員が教授する

# ≪科目目標≫

看護における感染・安全についての意義を理解し、原理・原則に沿った感染予防の援助技術を身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ メディカ出版
- ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA
- ③ 看護学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院

### ≪授業外における学習方法≫

課題学習を行う

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	感染予防の意義	講義
1	感染を成立させる要素と成立過程		<b></b> 再我
2	2	感染予防のための援助方法	講義・演習
3	2	念朱子例のための援助力伝	<b>神我</b>
4	2	感染性廃棄物の取り扱い 感染症発症時の対応	講義
5	2	感染予防のための援助技術	演習
6	2	医療安全の意義と確保・主な医療事故とその予防策	講義
7	2	医療女主の息義と作体 主な医療事政とその予例束	<b></b>

科目名	基礎看護技術Ⅲ(環境)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (16/30)	開講時期	1年前期

### 担当教員: 福岡 未来

### 実務経験のある教員による授業 ✓

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

#### ≪科目目標≫

人間にとっての環境の意味を理解し、対象が安全・安楽に闘病意欲を高め自立に向けた環境を整える援助技術を身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験、技術試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
- ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA
- ③ 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法	
1	2	環境の意義 環境を整える技術	講義	
2	2	ベッドメーキングの基礎知識	講義	
3	2	2人で行うベッドメーキング	演習	
		病床環境と病床の整備		
4	2	病床環境の調整援助のアセスメントの視点	講義	
	事例による病床環境の情報収集とアセスメント			
5	2	病床環境調整	演習	
6	2	臥床患者のシーツ交換	講義・演習	
7	2	<b>以</b> 外心を行りシーク交換	<b>神我</b> 伊白	
8	2	ベッドメーキング技術試験	技術試験	
	2	まとめ	講義	

科目名	基礎看護技術IV(清潔)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1年後期

### 担当教員: 堀 寿美枝

実務経験のある教員による授業

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義・演習を行っている。

≪科目目標≫

人間にとっての清潔・衣生活の意義や清潔に関する生理学的メカニズムを理解し、基礎的な 清潔の援助技術を身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験、技術試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
- ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA
- ③ 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院

#### ≪授業外における学習方法≫

特に演習については、教科書や視覚教材を使い事前学習して参加する

#### ≪履修に当たっての留意点≫

演習時はパジャマ上下(長袖・前開き・襟付き)、スパッツ、タオル類など持参する

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	清潔・衣生活の意義 皮膚・粘膜の生理的メカニズム	
2	2	清潔・衣生活のニーズのアセスメント	講義
3	2	清潔の援助方法	
4	2	寝衣交換(パジャマ交換)	演習
5	2	「全身清拭」の援助を計画しよう	講義・演習
6	2	町広島老の会長は	演習
7			(興百
8	2	臥床患者の足浴・手浴	講義・演習
9	2	臥床患者の洗髪	講義・演習
10	2	全身清拭 技術試験	技術試験
	<u> </u>	まとめ	講義

科目名	基礎看護技術IV(活·休)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年前期

### 担当教員: 住田 智亮

### 実務経験のある教員による授業 ✓

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

### ≪科目目標≫

人間にとっての活動及び休息・睡眠の意義とそのメカニズムについて理解し、基礎的な活動・休息・睡眠の援助技術を身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ メディカ出版
- ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA
- ③ 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
		休息と睡眠の意義・生理学的メカニズム	
1	2	休息・睡眠のニーズに関するアセスメント	講義
		休息・睡眠を促す援助の実際	
2	0	活動・運動の意義・生理学的メカニズム	<b>淮</b>
4	2	活動・運動のニーズのアセスメント	講義
3	2	安楽な体位 ボディメカニクス 活動・運動を支援する援助	講義
4	2	安楽な体位の調整 体位変換	演習
5	2	車いす・ストレッチャーでの移動・移送・歩行	演習

科目名	基礎看護技術V(食)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (12/30)	開講時期	1年後期

### 担当教員: 住田 智亮

### 実務経験のある教員による授業 ✓

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

### ≪科目目標≫

人間にとっての食事の意義や食事・栄養のメカニズムについて理解し、基礎的な食事の援助 技術を身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ メディカ出版
- ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA
- ③ 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA
- ④ 看護師のための早引き検査値・パニック値ハンドブック ナツメ社

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内容	教授方法
1	9	食事・栄養の意義	講義
1	2	食事に関する生理学的メカニズム	
2	2	食事・栄養に関する基礎知識 栄養状態のアセスメント	講義
3	2	食事・栄養に関する援助	講義
4	2	口腔ケア	講義
5	2	食事介助・口腔ケア	演習
6	2	非経口摂取の援助(経管栄養法・中心静脈栄養)	講義

科目名	基礎看護技術V(排泄)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (18/30)	開講時期	1年後期

#### 担当教員:福岡 未来

#### 実務経験のある教員による授業 ✓

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

### ≪科目目標≫

人間にとっての排泄の意義や排泄のメカニズムについて理解し、基礎的な排泄の援助技術を 身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
- ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA
- ③ 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA
- ④ 看護師のための早引き検査値・パニック値ハンドブック ナツメ社

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内容	教授方法
1	2	排尿・排便の意義 排尿・排便の生理学的メカニズム 排尿・排便のニーズのアセスメント	講義
2	2	排尿・排便の援助 1)床上での排尿・排便の援助	講義・演習
3	2	2) おむつを用いた援助	冷切
4	2	おむつ交換・陰部洗浄	演習
5	2	排尿・排便障害の種類① 排泄行動を阻害する因子 自然排便を阻害する要因	講義
6	2	排便障害時の援助 1) 温罨法・腹部マッサージ	演習
7	2	2) グリセリン浣腸	演習
8	2	排尿・排便障害の種類② 排泄行動を阻害する因子 自然排尿を阻害する要因	演習
9	2	排尿障害時の援助 1)一時的導尿	演習

科目名	基礎看護技術VI	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

#### 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 ✓

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。

### ≪科目目標≫

診療の補助技術に必要な生理学的メカニズムを理解し、安全・安楽に検査・治療・処置が受けられる基礎的な援助技術を身につける。治療・処置を受ける患者の気持ちに配慮した援助技術を身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ メディカ出版
- ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA
- ③ 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA
- ④ 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院

#### ≪授業外における学習方法≫

教科書に掲載してある AR 動画・DVD などを視聴し、イメージをつける。 講義に関連する「人体の構造と機能」の講義内容を振り返り理解する。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

演習では、医療物品を取り扱います。演習が安全で効果的な学習となるよう主体的な姿勢で 臨み、また、演習時は身だしなみを整え忘れ物がないようにする。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	治療・処置時の患者の理解と看護者の役割 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識	講義
2	2	無菌操作・滅菌物の取り扱い	講義
3	2	無困探下・放困物の取り扱い	演習
4	2	呼吸を楽にする援助 呼吸の生理学的メカニズム 1)呼吸法 2)痰を喀出させる方法(体位ドレナージ)	講義
5	2	3) 吸引 一時的吸引 (口腔・鼻腔) の基礎知識 持続吸引の基礎知識	講義
6	2	4) シミュレーターを使用した一時的吸引	演習
7	2	5) 吸入(ネブライザー) 療法	講義
8	2	6)酸素療法	講義
9	2	皮膚・創傷を管理するための基礎知識 1) 創傷の分類と治癒過程 創傷の管理	講義
10	2	2) 包帯法・三角巾	講義・演習

11	2	検査の意義 検査を受ける看護師の役割 検査の種類と実施時の注意点	講義
		検査の援助を外に対しては、	
12	2	尿・便・喀痰検査	講義
		腰椎穿刺・骨髄穿刺・胸水穿刺・腹水穿刺	
13	2	血液検査 静脈血採血	講義
14	2	シミュレーターを使用した静脈血採血(真空採血管による採血)	演習
15	2	シミユレーターを使用した静脈皿休皿(具全休皿官による休皿) 	<b>供</b> 自

科目名	基礎看護技術VII(与・輸)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

#### 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業

 $\checkmark$ 

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。

### ≪科目目標≫

診療の補助技術に必要な生理学的メカニズムを理解し、安全・安楽に薬物療法・輸血・中心 静脈挿入介助が行える基礎的な援助技術を身につける。治療・処置を受ける患者の気持ちに配 慮した援助技術を身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ メディカ出版
- ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA
- ③ 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA
- ④ 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院

#### ≪授業外における学習方法≫

教科書に掲載してある AR 動画・DVD などを視聴し、イメージをつける。

講義に関連する「人体の構造と機能」「基礎看護技術」の講義内容を振り返り理解する。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

演習では、針などの医療物品を取り扱います。演習が安全で効果的な学習となるよう主体的な姿勢で臨み、また、演習時は身だしなみを整え忘れ物がないようにする。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	与薬のための基礎知識・法的根拠 与薬における安全管理	講義
2	2	与薬のための援助技術 安全で確実な与薬のための知識・技術・態度	講義
3	2	経口的与薬法・その他の与薬法	講義
4	2	注射のための援助技術 ・注射法で使用する物品 注射の準備	講義
5	2	注射の実際① 皮内注射・皮下注射・筋肉内注射	講義
6	2	目的・適応・必要物品・注射部位・方法 アンプルカット	演習
7 8	4	シミュレーターを使用した皮下注射	演習
9	2	注射の実際② 静脈内注射 点滴静脈内注射	講義
10	2	目的・適応・必要物品・注射部位・方法	<b></b>
11	4	シミュレーターを使用した点滴静脈内注射	演習
12	<del>-</del>	マンニ・ ノ と区川 ビバ州町 田川川 1112月	IX H
13	2	輸血 基礎知識 援助の実際	講義

14	2	中心静脈カテーテル留置の介助 基礎知識 援助の実際	講義
15	2	持続点滴を挿入している患者の観察・寝衣交換	演習

科目名	基礎演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年後期

#### 担当教員: 上田 麻衣

実務経験のある教員による授業 ✓

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

#### ≪科目目標≫

事例を用いたシミュレーション演習を実践し、リフレクションを通して患者の観察から必要な情報に気づくことができ、その意味を理解し看護に活かすことができる。

また、リアリティーのある状況で実践する技術のリフレクションを通して、知識・技術・態度の統合を図り、臨地実習に活かすことができる実践力を身につけられるようにする。

基礎看護学実習IIで実施した援助について共有し、看護における「個別性」について考える。 実施した日常生活援助について安全・安楽・自立・個別性の視点をふまえて再構成し、個別 性のある援助を実施するための情報や援助を理解することができる。

再構成した日常生活援助を実施し、リフレクションを通して学びの共有を行い、今後の看護 に活かすことができる。

#### ≪成績評価の方法≫

評価表(ルーブリック)に基づき評価する。(レポート・授業参加度・発表内容)

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 I 基礎看護学② メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 II 基礎看護学③ メディカ出版
- ③ 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA
- ④ 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA

#### ≪授業外における学習方法≫

既習内容を理解し、また、必要な学習内容を主体的に考え学習する。

提示された事前課題を学習する。

### ≪履修に当たっての留意点≫

各講義学習に該当する学習内容の教科書や授業資料を準備し臨む。

事前課題に取り組み臨む。

回数	時間数	内容	教授方法
1	1	オリエンテーション シミュレーション演習 事例紹介	講義
2	2	シミュレーション演習(日常生活援助)	演習
3	2	シミュレーション演習(フィジカルアセスメント)	演習
4	2	基礎看護実習Ⅱのリフレクション「看護援助の個別性について」	講義・発表
5	2	個別性のある日常生活援助についての再構成	GW
6	2	個別任のめる日帯主荷援助に フいての丹構成	
7	2	個別性のある日常生活援助についてのグループ発表	発表
8	2	個別性のある日常生活援助についてのグループ発表	発表
0	<i>Z</i>	リフレクション「看護の個別性」について	講義

科目名	看護過程 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年後期

### 担当教員: 片倉 貴子

実務経験のある教員による授業

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

#### ≪科目目標≫

効果的な看護活動をするため、看護倫理・看護の役割を基に問題解決技法である看護過程を 展開する方法を学ぶ。また、看護過程を展開するための基礎的な知識として、アセスメント、 問題の明確化(看護診断)、計画立案、実施、評価のそれぞれの方法と一連の流れを理解する。 事例患者の看護課程を展開し、アセスメントから計画立案・記録の方法について学ぶ。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験 グループワーク 凝縮ポートフォリオの発表

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版
- ② 看護がみえる Vol.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	看護過程とは	講義・演習
2	2	看護過程展開に必要な能力 問題解決能力・クリティカルシンキング	講義・演習
3	2	リフレクション	講義・演習
4	2	看護過程の各段階 1)アセスメント2)看護問題の明確化	講義・演習
5	2	全体像	講義・演習
6	2	看護過程の各段階 3)看護計画 4)実施	講義・演習
7	2	看護過程の各段階 4)実施 5)評価	<b>建</b>
'		倫理的配慮と価値判断	講義・演習
8	2	看護における記録・報告	講義・演習
9	2		
10	2	<b>市</b> 周の鬼 <b>孝</b> の毛珠钿和の屈囲	<i>β</i> η →°
11	2	事例の患者の看護課程の展開	グループ ワーク
12	2	1) アセスメント 2) 看護問題の明確化 全体像	
13	2	3)看護計画 4)実施 5)評価	演習
14	2		
15	2	まとめ ( 凝縮ポートフォリオの発表 )	演習

科目名	看護過程Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2年前期

#### 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業

**V** 

看護師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を想定し、講義を行っている。

### ≪科目目標≫

事例患者を用いた看護過程を展開し、アセスメントから計画立案・記録方法について理解する。

#### ≪成績評価の方法≫

課題の評価表(ルーブリック)に基づき評価する。 看護過程・凝縮ポートフォリオの発表

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 メディカ出版
- ③ 看護がみえる Vol. 4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA

### ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	オリエンテーション 事例の紹介	講義
2	2	事例患者の情報収集と整理	講義
3	2	情報収集アセスメントから看護問題・共同問題の抽出	講義
4	2	全体像を描き、看護診断を実施し、優先順位をつける	講義
5	2	フォーカスアセスメントをし、期待される成果、看護計画を立案する	講義
6	1	立案した看護計画の実施とリフレクション	演習
7	2	<u> </u>	(興百
8	2	まとめ ( 凝縮ポートフォリオの発表 )	演習

科目名	地域包括支援 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習 フィールドワーク
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年前期

担当教員:井上 亜希

実務経験のある教員による授業

**✓** 

在宅看護業務に携わった教員が教授している

### ≪科目目標≫

地域の特性を知り、そこで生活する人とその人を取り巻く地域包括ケアシステムを理解する

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
- ② ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版
- ③ 公衆衛生がみえる メディックメディア
- ④ 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社

# ≪授業外における学習方法≫

予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	瀬戸市の地域特性・統計、地区踏査について	講義
2	2	地域包括ケアシステム:地域包括支援センター	講義
3	1	訪問マナー	講義・演習
4	2	地区踏査①:瀬戸市の産業と私たちの身近な地域	フィールドワーク
5	2	地区踏査②: 学びの共有	演習 (GW)
6	2	地区踏査③:まとめ	演習 (発表)
7	2	地域に生活する人を支える制度	講義
8	2	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携	講義

科目名	地域・在宅看護概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年後期

担当教員: 木下 典子

実務経験のある教員による授業

 $\square$ 

在宅看護業務に携わった教員が教授している

# ≪科目目標≫

社会背景を理解し、在宅看護の特徴や基盤を学び、在宅療養者の特性と家族のニーズに即し た看護を理解する

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
- ② ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版
- ③ 公衆衛生がみえる メディックメディア
- ④ 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社

### ≪授業外における学習方法≫

予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	1. 地域・在宅看護の概念 在宅看護のイメージ	講義
2	2	地域・在宅看護の背景、地域・在宅看護の基盤	講義
3	2	地域療養を支える在宅看護の役割・機能	講義
4	2	地域・在宅看護を展開するための基本理念、地域・在宅看護における倫理	講義
5	2	2. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護地域包括ケアシステム	講義
6	2	療養の場の移行に伴う看護 (退院支援・退院調整)	講義
7	1	在宅看護におけるケアマネジメント	講義
8	2	認知症サポーター養成講座	外部講師

科目名	地域・在宅看護の方法I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習 フィールドワーク
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (3	開講時期	2年前期

## 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 🗸

在宅看護業務に携わった教員が教授している

### ≪科目目標≫

地域で療養する人の生活から、看護課題を見出して、その人に必要な生活支援について知識・ 技術を習得する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版
- ③ 写真でわかる訪問看護 インターメディカ

## ≪授業外における学習方法≫

予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	在宅看護過程の特徴、情報収集の幅広さ、情報整理とアセスメント	講義
2	2	看護課題の考え方、目標設定と評価の視点、記録	講義
3	2	在宅看護における危機管理、日常生活における安全管理	講義・GW
4	2	感染予防、災害対策	講義
5	2	在宅生活を支える基本的な技術 1 (コミュニケーション、環境整備、生活リハビリ)	講義
6	2	在宅生活を支える基本的な技術 2 (環境整備:福祉用具)	フィールドワーク
7	2	在宅生活を支える基本的な技術3(環境整備:福祉用具) まとめ	演習(GW·発表)
8	2	日常生活を支える看護技術(呼吸・フィジカルアセスメント)	講義
9	2	日常生活を支える看護技術(食事のアセスメントと援助)	講義
10	2	日常生活を支える看護技術(フレイル予防のアセスメントと援助)	講義
11	2	日常生活を支える看護技術:清潔・移動のアセスメントと援助	講義・GW
11	2	(自立を促す清潔ケア、足病変のアセスメント・予防とケア)	
12	2	日常生活を支える看護技術:清潔・移動援助	演習
13	2	(自立を促す清潔ケア)	演習
14	2	日常生活を支える看護技術 (排泄のアセスメントと援助)	講義
15	2	療養を支える看護技術(ストーマ管理)	講義

科目名	地域・在宅看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☑

在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している

## ≪科目目標≫

地域で療養する人と家族が安心して日常生活を送るために必要な医療処置と支援について知 識、技術を習得する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
- ② ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版
- ③ 写真でわかる訪問看護 インターメディカ ④ 在宅看護過程 医学書院

## ≪授業外における学習方法≫

予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	医療ケアの原理原則	講義
		医療処置を必要とする療養者の理解 (小児・難病)	h11-4%
2	2	排尿ケア(膀胱留置カテーテル)	講義
3	2	在宅経管栄養法	講義
4	2	在宅中心静脈栄養法	講義
5	2	膀胱留置カテーテル演習	演習
6	2	防加田巨刀ノーノル供自	供白
7	2	在宅酸素療法	講義
8	2	在宅人工呼吸療法 (NPPV·TPPV)	講義
9	2	気管カニューレ管理、排痰ケア	講義
10	2	在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法患者の看護	外部講師
11	2	薬物療法・インスリン自己注射管理・疼痛管理	講義
12	2	がん外来化学療法・在宅 CAPD 管理	講義
13	2	褥瘡管理	講義・演習
14	2	在宅ターミナルケア	講義
15	2	在宅ターミナルケアの実際	外部講師

科目名	地域・在宅看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2年後期

担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☑

在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している

#### ≪科目目標≫

地域での療養生活を継続するための、訪問看護の役割と在宅看護の展開方法を理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版
- ③ 在宅看護過程 医学書院

### ≪授業外における学習方法≫

予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読し、理解を深める

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	事例① 自己管理が必要な糖尿病のある独居高齢者:移行期	講義
2	2	事例② 中途障害による頸髄損傷障害者:安定期	講義
3	2.	事例③ 地域で生活する重症心身障害児と家族:移行期・安定期	講義
3	障害者・障害児が利用できる社会資源		<b></b> 再我
4	2	事例④ 被虐待が疑われる認知症高齢者と家族:地域ケア	講義
5	2	事例⑤ 在宅で終末期を迎える療養者と家族:終末期	講義
6	2	在宅看護過程①:初回訪問の情報整理とアセスメント	演習 (GW)
7	2	在宅看護過程②:看護課題、目標設定、社会資源活用の検討	演習 (GW)
8	1	在宅看護過程③:まとめ	演習(GW·発表)

科目名	地域包括支援Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	2年前期

 $\mathbf{Z}$ 

担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業

在宅看護業務に携わった教員が教授している

#### ≪科目目標≫

地域で療養する人と家族の生活を理解し、それを支える看護を学ぶ

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版
- ③ 公衆衛生がみえる メディックメディア
- ④ 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社

## ≪授業外における学習方法≫

予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する。

回数	時間数	内容	教授方法
		1. 在宅療養者と家族の支援	講義
1	2	地域・在宅看護の対象者	
		在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件	
2	2	在宅療養の場における家族のとらえ方	講義
3	2	在宅療養者の家族への看護	講義
4	1	2. 地域療養を支える制度	講義
4	1	医療保険制度、難病法、子どもの在宅療養を支える制度と社会資源	
5	2	3. 在宅療養を支える訪問看護	講義
	2	訪問看護の特徴、在宅ケアを支える訪問看護ステーション	
6	2	訪問看護サービスの展開、訪問看護の記録	講義
7	2	4. 訪問看護技術	講義
	2	家庭訪問、初回訪問	
8	2	訪問看護の実際	外部講師

科目名	小児看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

## 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 ✓

小児科病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な 事例を含めた講義を行っている。

## ≪科目目標≫

小児各期の成長発達の特徴を理解し、小児の健全な成長発達を促すための援助を学ぶ。また、子どもを取り巻く社会環境について知り、子どもの最善の利益について考える

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護:メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術:メディカ出版

公衆衛生がみえる メディックメディア

## ≪授業外における学習方法≫

課題学習を行う

## ≪履修に当たっての留意点≫

積極的に GW に参加できるよう、準備して授業に参加する

回数	時間数	内 容	教授方法
1 2	2 2	小児看護の対象とその時期・小児の成長発達の原則と影響因子	講義
3	2	身体発育および発達の評価	
4	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助:新生児	講義
5	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助:乳児	GW
6	2	竹児骨期の成長先達の特徴と健康生品・Vの援助・孔光	講義
7	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助:幼児	GW
8	2	小児台州の成長先達の特徴と健康生品への援助: 幼児	講義
9	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助:学童期・思春期	GW
10	2	小児台朔の成支先達の特徴と健康生品・の援助: 子里朔・心春朔	講義
11	2	子どもの栄養	講義
12	2	調乳	演習
13	2	成長発達を促すかかわりを考える	GW
14	2	小児看護の変遷・子どもと家族を取り巻く法律と施策	講義
15	2	子どもの権利・子どもの最善の利益	講義

科目名	小児看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	2年前期

担当教員: 非常勤講師

## ≪科目目標≫

小児期に起こりやすい代表的な疾患の病態・治療・検査について理解する

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	新生児疾患(RDS・MAS・新生児仮死・幽門狭窄症・二分脊椎)、遺伝性疾患、染色体異常(13・18・21トリソミー・ターナー症候群・クラインフェルター症候群)	講義
2	2	代謝・内分泌疾患(新生児マススクリーニング・糖尿病・成長ホルモン分泌不全)、アレルギー疾患(食物アレルギー)	講義
3	2	免疫・アレルギー疾患(気管支喘息・川崎病)	講義
4	2	循環器疾患 (VSD・ASD・PDA・ファロー四徴症)	講義
5	2	腎・泌尿器疾患(ネフローゼ症候群・尿路感染症)、消化器疾患 (腸重積症・周期性嘔吐症)	講義
6	2	血液・腫瘍疾患(ITP・白血病)	講義
7	2	神経・筋・精神疾患(てんかん・熱性けいれん・自閉スペクトラム症)	講義
8	1	感染症(髄膜炎・麻疹・風疹・水痘・ムンプス・インフルエンザ・ RS・結核・百日咳・ジフテリア・破傷風・ポリオ・溶連菌感染症)	講義

科目名	小児看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

## 担当教員: 専任教員

## 実務経験のある教員による授業

小児科病棟勤務経験があり、その経験から得た知識や患児、家族との関わりなどを講義にいかしている。

#### ≪科目目標≫

小児の健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、小児看護を行うための基礎的 知識を理解する。

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版
- ③ ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

#### ≪履修に当たっての留意点≫

小児看護概論で学んだ、子どもの成長発達を想起しながら子供の看護を考える

回数	時間数	内容	教授方法	
1	2	慢性期にある子どもと家族への看護	講義	
2	2	急性期にある子どもと家族への看護(発熱)	講義	
3	2	急性期にある子どもと家族への看護 (脱水)	講義	
4	2	急性期にある子どもと家族への看護 (けいれん)	講義	
5	2	急性期にある子どもと家族への看護(呼吸困難)	講義	
6	2	周手術期にある子どもと家族への看護	講義	
7	2	障害を持つ子どもと家族への看護	講義	
8	2	在宅における子どもと家族への看護	講義	
8	Δ	災害を受けた子どもと家族への看護	<b>叶</b> 我	
9	2	救急救命処置を受ける子どもと家族への看護	講義	
9	2	被虐待児と家族への看護	<b>叶</b> 我	
10	2	検査や処置を受ける子どもと家族への看護	講義	
11	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	講義	
12	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	講義	
13	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	講義	
14	2	終末期にある子どもと家族への看護	講義	
15	2	終末期にある子どもと家族への看護	講義	

科目名	小児看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

# 担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ▽

小児病棟で実務経験のある教員がその経験を生かし、実践的な事例を含めた講義を行っている。

## ≪科目目標≫

小児の特徴的な健康障害を取り上げ、子どもの基本的特性に応じた症状のアセスメントや必要な看護が理解できる。

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版
- ③ ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	ハイリスク新生児と家族への看護	講義
2	2	ハイリヘク利生児と家族への有護 	講義
3	2	外来における子どもと家族への看護	講義
4	2	子どもの安全を守るために必要な看護(KYT)	講義
5	2	するもの女主をするために必要は有護(MII)	講義
6	2	健康障害をもつ子ども・家族へのアセスメント	講義
7	2	事例①川崎病	講義
8	2	事例②嘔吐下痢症	講義
9	2		講義
10	2	事例③気管支喘息	講義
11	2	予例の以目又情心	講義
12	2	車周のクフローゼウは形	講義
13	2	事例④ネフローゼ症候群	講義
14	2	事例⑤白血病	講義
15	2	新生児人形を用いて身体計測 モデル人形を用いて心拍数・呼吸数測定 保育器の取り扱い	演習

科目名	成人看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年後期

担当教員: 平田 めぐみ

実務経験のある教員による授業

 $\square$ 

成人看護の実務経験を活かし、成人期を理解するために必要な基礎的知識、成人教育を教授 している

## ≪科目目標≫

役割や責任を果たしながら自立して生活している成人期にある対象の特徴を理解し、その人 の力を高めていく関わり方の基礎を学ぶ

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験·実技試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

文献学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	成人各期の特徴	講義
2	2	成人各期の健康問題	講義
3	2	生活習慣に関連する健康障害	講義
4	2	健康レベル・経過別看護 成人への看護に有用な概念 (病みの軌跡・セルフケア)	講義
5	2	成人への看護に有用な概念(ストレス・危機・自己効力)	講義
6	2	成人の学習の特徴と看護	講義
7	2	看護における教育・指導技術	講義
8	2	健康教育演習のオリエンテーション	講義
9	2	情報収集(面接)	演習
10	2	情報収集(面接)	演習
11	2	パンフレット・指導計画書の作成	講義
12	2	パンフレット・指導計画書の作成	講義
13	2	指導の実施及び評価	演習
14	2	指導の実施及び評価	演習
15	2	指導後の対象の状況との確認と評価 (面接)	演習

科目名	成人看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

## 担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業

成人看護の実務経験を活かして、主な慢性疾患患者の特徴やアセスメントの視点、看護の方 法に関する基礎知識を教授している。

## ≪科目目標≫

慢性期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、セルフマネジメントできるよう 自己の力を引き出す看護を学ぶ

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験、レポート

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

事前学習を行う

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	慢性期にある人への看護の考え方	
		慢性期の概念	講義
2	2	慢性疾患とその治療の特徴	
		慢性期にある人の特徴の理解と看護援助	
3	2	慢性期にある人の心理・社会的特徴	
		病みの軌跡	講義
4	2	障害受容のプロセス	講義・演習
_	_	エンパワーメント・自己効力感	
5	2	COPD についての理解・酸素カニューラ体験について	講義
6	2	   慢性の呼吸機能障害を持つ人の看護(COPD)	講 <b>美</b> • 演習
7	2	受任の呼吸機能停音を行う人の有後(UUFD)	<b>两找</b> 换日
8	2	糖尿病の理解	講義
9	2	   糖尿病を持つ人の看護	演習
10	2	からかがってい、ファイマン自成	100 日
11	2	血糖測定	演習
12	2	慢性腎臓病の理解	講義
13	2	慢性の内分泌環境調節障害を持つ人の看護(腎臓病)	講義
14	2	慢性心不全の理解	講義
15	2	慢性心不全を持つ人の看護	講義

科目名	成人看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

## 担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ▽

看護師として実務経験のある教員が、リハビリ期の疾患や患者の特徴、アセスメントの視点、 看護援助方法について教授している

## ≪科目目標≫

リハビリテーションを必要とする人の、身体的・精神的・社会的特徴を理解し、セルフケア の再獲得ができるよう、自己の力を引き出す看護を学ぶ

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験・課題レポート

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

# ≪授業外における学習方法≫

課題学習を行う

## ≪履修に当たっての留意点≫

7~12回は事例を用いた看護過程を行うため、事前学習を行って講義に臨むこと

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	リハビリテーション看護	講義
		時期・目的からみたリハビリテーション看護	IIT 4X
2	2	リハビリテーション看護の対象と心理	講義
	2	リハビリテーション看護の方法	<b>叶</b> 我
3	2	運動器系の障害とリハビリテーション看護	講義
4	2	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護	講義
5	2	呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション看護	講義
6	2	障害者を支える制度	講義
0	Δ	多職種連携のあり方	<b></b>
7	2	看護過程の展開:事例提示	講義
8	2	看護過程の展開:疾患理解	講義
9	2	看護過程の展開:データベースアセスメント	演習・講義
10	2	看護過程の展開:フォーカスアセスメント・看護計画①	演習・講義
11	2	看護過程の展開:フォーカスアセスメント・看護計画②	演習・講義
12	2	看護過程の展開:フォーカスアセスメント・看護計画③	演習
13	2	手港 温和 の 屈 明 , 改 主	演習
14	2	看護過程の展開:発表 	( ) ( ) ( ) ( )
15	2	看護過程の展開:まとめ	講義

科目名	成人看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☑

がん看護を実践してきた経験をもつ教員が講義をおこなう

## ≪科目目標≫

学習目的:看護師が看護実践するために必要ながん・終末期看護の知識について理解する

学習目標:・がんの病態・治療の特徴、日常生活への影響を理解し、がん患者が安全安楽に

その人らしい生活が送れるよう援助する方法を学ぶ

・終末期にある人の心身の変化を理解し、心身の苦痛を緩和する看護を学び死生

観を養う

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① 系統看護学講座:別巻 がん看護学 医学書院
- ② ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版
- ③ 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA

#### ≪授業外における学習方法≫

指定した自己学習は必ず取り組み、効果的に理解を深められるようにする

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	がん看護学の対象となる患者のすがた がん医療の現在と看護①がんを取り巻く状況②がんについて知る	講義
2	2	がん治療における看護の重要性 がん患者の心理的サポート がん治療の場と看護	講義
3 4	2 2	がん患者の看護がんの苦痛に対するマネジメント (ペインコントロールを中心に)	講義
5 6 7	2 2 2	がんの治療に対する看護①化学療法	講義
8	2	がんの治療に対する看護②放射線療法	講義
9	2	終末期にまつわる言葉の整理	講義
10	2	死をめぐる倫理的課題の理解	講義
11	2	意思決定を支える看護	講義
12	2	終末期におけるトータルペインと看護 (スピリチュアルケアを中心に)	講義
13	2	死にゆく人の心理過程を深める	講義・演習
14	2	臨死期のケア	講義
15	2	終末期看護の在り方を考える 家族ケア	講義

科目名	成人看護の方法IV	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

## 担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ▽

急性期看護の実務経験を活かして、救急看護・クリティカルケア看護の基礎知識と看護援助 方法について教授する

## ≪科目目標≫

疾病の急激な発症や急変によって起こった生命の危機的状態にある患者と家族に対する看護 を学ぶ

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

系統看護学講座:別巻 救急看護学 医学書院

## ≪授業外における学習方法≫

文献学習

## ≪履修に当たっての留意点≫

授業の中でグループワークを多く行います。積極的に意見交換をし、自分自身の意見を述べて学びを深めていってください。

回数	時間数	内 容	教授方法
		救急看護とクリティカルケアの特徴	
1	2	救急医療体制と救急搬送システム	講義
		救急看護・クリティカルケアの場	
2	2	救急外来におけるトリアージ	講義・演習
3	2	ショックとその対応	講義・演習
4	2	心停止とその対応	講義・演習
5	2	対象と家族の心理状態とその関わり	講義
6	2	脳死と臓器移植	講義
7	2	クモ膜下出血の看護	講義・演習
8	2	急性心筋梗塞の看護	講義・演習
9	2	意識障害への対応①	講義・演習
10	2	意識障害への対応②	講義・演習
11	2	急性呼吸不全の看護	講義・演習
12	2	体位ドレナージ	<b>再我</b> 伊白
13	2	救急看護・クリティカルケア看護の専門性	講義
14	2	気管内吸引	演習
15	2	気管内吸引	演習

科目名	成人看護の方法V	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

# 担当教員: 専任教員

## 実務経験のある教員による授業 🛭

外科病棟での実務経験を活かして、周手術期の生体反応や看護の方法について教授している。

# ≪科目目標≫

周手術期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とそれらに応じた看護を学び、周手術期にある人を支援するために必要な基礎的能力を養う。

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験・レポート

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1,2,3 医歯薬出版

## ≪授業外における学習方法≫

## ≪履修に当たっての留意点≫

疾病と治療 V (麻酔・生体反応、手術)で学習した内容を復習する

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	周手術期看護とは・周手術期の心理過程の特徴・術前検査	講義
2	2	手術室の環境・手術室における看護・麻酔・Moore 分類	講義
3	2	生体侵襲理論・循環器系・呼吸器系への影響と看護	講義
4	2	消化器系・術後感染への影響と看護	講義
5	2	(松外)でわて M 5 7 明暗も来らて、明 声回、マセフリン 1 、毛珠計画	<b>≭</b> ¥
6	2	術後におこりうる問題を考える・関連図・アセスメント・看護計画	講義
7	2	アセスメント・看護計画における補足説明/麻酔や手術に影響を 及ぼす事項	講義
8	2	術後の看護 術後ベッド・ドレーン種類/挿入部位/管理	講義
9	2	事例における疾患の理解(胃がん・幽門側胃切除術)	講義
10	2	クリニカルパス・術後の生活を考える・患者指導	講義
11	2	事例における関連図の作成・アセスメントと看護を考える	
12	2	新加にWin S 関連図V/FM、 / Eハグンドと有機を行える	GW
13	2	事例から術後1日目の看護を考える・	
14	2	事例から術後1日目の看護を実践する	演習
15	2		I

科目名	老年看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1年後期

#### 担当教員: 井澤 由記

#### 実務経験のある教員による授業

療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。

# ≪科目目標≫

学習目的:老年看護の対象および高齢者を取り巻く環境を理解し、看護の役割を学ぶ

学習目標:①老年看護の対象を理解する

- ②高齢者を取り巻く社会の動きと現状を理解する
- ③加齢に伴う体の変化や疾病をめぐる変化の特徴を理解する
- ④高齢者疑似体験を通し、老化に伴う心理を推測する
- ⑤高齢者の尊厳と権利擁護の考え方を理解し、高齢者のもてる力を引き出す 老年看護の基本を理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験 レポート

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版
- ③ 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA

## ≪授業外における学習方法≫

課題学習

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	高齢者の特徴と理解 (ライフサイクル・生きてきた時代背景)	講義・GW
2	2	高齢者看護の特性:高齢者の力を活かすか関わりを考える	講義・GW
3	2	高齢者をとりまく社会:データから高齢社会の現状を読み取る	講義
4	2	高齢者看護における倫理① (高齢者虐待・成年後見制度)	講義
5	2	高齢者看護における倫理②(身体拘束)	講義・GW
6	2	高齢者を支える制度(介護保険制度・後期高齢者医療制度)	講義
7	2	高齢者疑似体験	演習
8	2	同即有疑以件款	供自
9	2	加齢に伴う変化	講義・GW
10	2		m <del>件我</del> · GW
11	2	高齢者によくみられる疾患	講義
12	2	高齢者にとっての健康(ICF の考え方、生活の視点で看護を考える)	講義・GW
13	2	認知症の理解	講義
14	2	高齢者の死と医療・ケア	講義・GW
15	2	「老年看護で大切にしたいこと」を考える	GW

科目名	老年看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義·演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2年前期

#### 担当教員: 専任教員

#### 実務経験のある教員による授業

療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。

#### ≪科目目標≫

学習目的: 高齢者に起こりやすい問題を知り、予防という視点から看護の役割を考える

学習目標:①地域高齢者を支えている医療・福祉職とその役割を理解する

- ②介護が必要な高齢者を支える施設および通所施設を理解する
- ③高齢者に起こりやすい問題を知り、健康増進を支える取り組みを理解する
- ④健康を保ちながら生活する高齢者を知り、地域全体で健康増進を支える取り組 みを理解する

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版

#### ≪授業外における学習方法≫

課題学習、グループワーク

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	多様な生活の場における看護	講義・GW
2	2	(高齢者を支えている職種と役割、介護保険サービス)	講我 ⋅ GW
3	2	高齢者のヘルスプロモーション①	講義・GW
٥	<u> </u>	高齢者の栄養の現状と改善への看護	再我 °₩
4	2	高齢者のヘルスプロモーション②	講義・GW
4	<u> </u>	転倒予防・リスクアセスメント	再我 °₩
		高齢者のヘルスプロモーション③	
5		地域で役割を持ち、活躍する高齢者を知る	
	3	高齢者の健康を地域全体で支える取り組みを知る	講義
	J	*シルバー人材センターで勤務する高齢者の方の講話	<b>叶</b> 我
6		*瀬戸市高齢者福祉課の専門職の方の講話	
		*瀬戸地域福祉を考える会「まごころ」の方の講話	
7	2	高齢者のリハビリテーション	講義・GW
8	2	介護予防を意識した関わりについて考える	→ 研我・GW

科目名	老年看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

#### 担当教員: 専任教員

#### 実務経験のある教員による授業 ✓

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

#### ≪科目目標≫

学習目的:慢性疾患や健康障害を持つ高齢者が、疾患や障害をもちながらもその人らしく生活を営むことができるように持てる力に着眼し、安心していきいきと暮らせるよう、安全面にも配慮した看護を提供するための知識・技術を修得する。

学習目標:①高齢者の6つの生活行動に焦点をあて、対象を捉える方法を理解する。

- ②栄養状態を改善、維持する方法の1つである経鼻経管栄養を、安全に行うための、知識・技術を修得する。
- ③排泄障害を来しやすい高齢者の排泄ケアを適切に行うための、知識・技術を修得する。
- ④事例から高齢者の生活を整える看護を考えることができる。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験・課題レポート・ポストテスト・授業態度

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① 生活機能からみた老年看護過程 第4版 医学書院
- ② ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 メディカ出版
- ③ 看護がみえる vol, 2 臨床看護技術 メディックメディア

## ≪授業外における学習方法≫

課題学習を行う

#### ≪履修に当たっての留意点≫

課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	老年看護の展開における考え方	講義
2	2	生活行動情報の着眼点 (活動・休息・身じたく)	講義
3	2	生活行動情報の着眼点 (コミュニケーション)	講義
4	2	生活行動情報の着眼点(食事)	講義
5	2	栄養管理:経鼻経管栄養カテーテルの挿入と管理	講義
6	2	経鼻経管栄養	演習
7	2	経鼻経管栄養	演習
8	2	摂食嚥下障害看護 *外部講師	講義・演習
9	2	生活行動情報の着眼点(排泄)	講義
10	2	排泄を支える看護(排尿障害、排便障害(摘便)1)	講義
11	2	排泄を支える看護(排尿障害、排便障害(摘便)2)	演習
12	2	生活行動に焦点をあてた看護 (事例検討)	講義・GW
13	2	生活行動に焦点をあてた看護 (事例検討)	講義・GW
14	2	生活行動に焦点をあてた看護 (発表)	演習
15	2	高齢者の生活を支える看護	講義

科目名	老年看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

### 担当教員: 専任教員

## 実務経験のある教員による授業

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

#### ≪科目目標≫

学習目的:治療を必要とする高齢者の看護について理解を深め、その人らしい生活を支える

看護を実践するための知識や視点、ケアの方法を理解する。

学習目標: ①各病期の治療を受ける高齢者の看護が理解できる。

②認知症をもつ高齢者の看護が理解できる。

③病態と生活機能に着目した、看護過程の展開ができる。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験・課題レポート・ポストテスト・授業態度

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版
- ③ 生活機能からみた老年看護過程 第4版 医学書院

## ≪授業外における学習方法≫

課題学習を行う。

## ≪履修に当たっての留意点≫

課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	治療を受ける高齢者の看護 1 (薬物療法:心不全・肺炎)	講義
2	2	治療を受ける高齢者の看護2 (大腿骨近位部骨折・脊髄圧迫骨折)	講義
3	2	治療を受ける高齢者の看護3(慢性期:パーキンソン病)	講義
4	2	認知症看護1 (病態・症状の理解・治療) うつ病、せん妄	講義
5	2	認知症看護 2(ユマニチュード・リラクゼーション)	講義
6	2	初知ウ毛珠 9 (ANLの低ておれてきおいたこれとで、四座のアナナギンス)	<b>建</b>
7	2	認知症看護 3 (ADL の低下が起こらないようなケア・環境の工夫を考える)	講義・演習
8	2	認知症看護4:治療・介護を必要とする高齢者の家族看護	講義・GW
9	2	高齢者の終末期:終末期看護、意思決定支援、グリーフケアなど	講義・GW
10	2	老年看護過程:大腿骨頸部骨折の患者 事例展開	講義・GW
11	2	*************** *********************	<b>淮</b>
12	2	老年看護過程:情報の分析 	講義
13	2	老年看護過程:生活機能関連図	講義
14	2	老年看護過程:看護の焦点	講義
15	2	老年看護過程:看護の焦点 (発表)	講義

科目名	母性看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

## 担当教員: 専任教員

## 実務経験のある教員による授業 ✓

産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かした講義を行っている。

## ≪科目目標≫

学習目的:母性についてその特徴を捉え、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライ

ツの視点から、社会における母性看護の現状とその役割、今後の課題を理解する。

学習目標:1.母性看護の基盤となる概念を理解する。

2. 女性のライフステージ各期の健康問題と看護について理解する。

3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。

4. 母性看護の役割、法的責任と倫理について理解する。

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験、レポート

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシング・グラフィカ母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版

#### ≪授業外における学習方法≫

課題学習を行う

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	母性看護の中心概念	講義
2	2	セクシュアリティ	講義
3	2	リプロダクティブヘルス/ライツ	講義
4	2	母性看護とは	講義
5	2	母性看護実践を支える概念	講義
6	2	母性看護に関する法律と制度	講義
7	2	母子保健統計	講義
8	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護(思春期)①	講義
9	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護(思春期)②	講義
10	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護(成熟期)①	講義
11	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護(成熟期)②	講義
12	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護(更年期)	講義
13	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護 (老年期)	講義
14	2	リプロダクティブヘルスに関する倫理①	講義
15	2	リプロダクティブヘルスに関する倫理②	講義

科目名	母性看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2年前期

## 担当教員: 専任教員

### 実務経験のある教員による授業

産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な 事例を含めた講義を行っている。

## ≪科目目標≫

学習目的:妊娠の正常な経過ならびに正常を逸脱した妊娠の経過とその援助方法を学ぶ

分娩の正常な経過ならびに正常を逸脱した分娩の経過とその援助方法を学ぶ

学習目標:1. 正常な妊娠経過とその援助方法を理解する

2. 正常を逸脱した妊娠とその援助方法を理解する

3. 正常な分娩経過とその援助方法を理解する

4. 正常を逸脱した分娩とその援助方法を理解する

5. ウェルネス志向での看護過程を理解する

#### ≪成績評価の方法≫ 筆記試験、レポート

### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

①ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版

②ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版

③ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版

#### ≪授業外における学習方法≫

事前学習・妊娠期の事例のアセスメントを実施する

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	妊娠・出産の現状とサポート、妊娠の定義・成立	講義
2	2	妊娠による妊婦・家族への影響、妊婦健診	講義
3	2	妊娠期の身体的・心理的・社会的変化とその援助①	講義
4	2	妊娠期の身体的・心理的・社会的変化とその援助②	講義
5	2	妊婦体験、妊娠期の身体的・心理的・社会的変化とその援助③	演習
6	2	正常を逸脱した妊娠とその援助方法①	講義
7	2	正常を逸脱した妊娠とその援助方法②	講義
8	2	妊娠期の看護過程① (事例のアセスメント)	講義
9	2	妊娠期の看護過程②(看護を考える)	演習
10	2	正常な分娩① (分娩の定義、分娩の3要素、分娩経過)	講義
11	2	正常な分娩② (分娩による母体・胎児への影響、心理的変化)	講義
12	2	正常な分娩③(家族の心理的変化)、分娩期の援助①	講義
13	2	分娩期の援助②	講義
14	2	正常を逸脱した分娩とその援助方法①	講義
15	2	正常を逸脱した分娩とその援助方法②	講義

科目名	母性看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

## 担当教員: 専任教員

## 実務経験のある教員による授業 ✓

産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。

### ≪科目目標≫

学習目的:正常な産褥および正常を逸脱した産褥への援助方法を理解する。

正常な新生児および正常を逸脱した新生児への援助方法を理解する。

学習目標:1.正常な産褥経過とその援助方法を理解する。

2. 正常を逸脱した産褥とその援助方法を理解する。

3. 新生児の特徴と生理的変化およびその援助方法を理解する。

4. 正常を逸脱した新生児とその援助方法を理解する。

5. ウェルネス志向での母性看護過程について理解する。

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実際 メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版

#### ≪授業外における学習方法≫

事前学習、課題学習を行う

#### ≪履修に当たっての留意点≫

事例のアセスメントについては、必ず事前課題に取り組んで講義に臨むこと。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	全身の回復過程とその援助方法	講義
2	2	生殖器の復古とその援助方法	講義
3	2	産褥期に影響を及ぼす妊娠・分娩経過のアセスメント①	講義
4	2	産褥期に影響を及ぼす妊娠・分娩経過のアセスメント②	講義
5	2	全身の回復と生殖器の復古のアセスメント	講義
6	2	母乳分泌のメカニズムと母乳育児支援	講義
7	2	母乳育児のアセスメント①	講義
8	2	母乳育児のアセスメント②	講義
9	2	親役割獲得過程とその援助方法 親役割獲得のアセスメント	講義
10	2	正常を逸脱した褥婦への看護	講義
11	2	出生直後の胎外生活適応過程と看護	講義
12	2	出生直後の新生児のアセスメント	講義
13	2	胎外生活適応過程を促進するための看護①	講義

14	2	胎外生活適応過程を促進するための看護②	講義
15	2	正常な新生児のアセスメント	講義

科目名	母性看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2年後期

## 担当教員: 専任教員

### 実務経験のある教員による授業

産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。

### ≪科目目標≫

学習目的: 1. 産褥・新生児期にある母子とその家族への看護を理解する。

2. 母性看護で必要な看護技術を修得する。

学習目標:1. 母子相互作用に着目し、ウェルネス志向での母子に対する看護を理解する。

2. 妊婦、褥婦に必要な看護技術を理解する。

3. 新生児への援助に必要な看護技術を修得する。

### ≪成績評価の方法≫

筆記試験、レポート、実技試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実際 メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版

### ≪授業外における学習方法≫

事前学習、課題学習を行う

#### ≪履修に当たっての留意点≫

事例を用いた看護過程は母性看護の方法Ⅱで用いた事例を使用するため、復習を行って講義に臨むこと。

看護技術は母性看護の方法Ⅰ・Ⅱで学習しているため、復習を行って演習に臨むこと。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	産褥・新生児期にある母子とその家族の看護の特徴 (母子を一組の対象者として捉える、母子相互作用)	講義
		正常な褥婦・新生児の必要な看護の抽出①	
2	2	正常な褥婦・新生児の必要な看護の抽出②	講義・演習
3	2	沐浴・寝衣交換・オムツ交換	神我 * 伊白
4	2	妊婦への援助技術 (腹囲・子宮底測定、浮腫の観察、レオポルド触診法)	演習
5	2	褥婦への援助技術 (子宮復古の観察、産褥体操、授乳、乳房マッサージ)	IX E
6	2	沐浴	技術試験
7	2	正常な褥婦・新生児の必要な看護の抽出③	講義
8	1	上市は特別・利工ルッと女は有威の担山(の)	<b>"                                    </b>

科目名	精神看護学概論 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

#### 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 ✓

臨床・看護教員として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。

### ≪科目目標≫

学習目的:精神看護の基本となる人間理解を目的として、人格の発達過程、人の心理・行動特

性を理解し、健康な生き方とは何かについて考える。

学習目標: 心の健康とは何かを理解し、心の発達過程について説明できる。心の健康に影響を

及ぼす要因と対処法について説明できる。現代家族の特徴、核家族の機能と役割に

ついて説明できる。

### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

① ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メデイカ出版

② ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メデイカ出版

### ≪授業外における学習方法≫

DVD を各自視聴するなどし、イメージをつけながら講義に臨めるようにする

#### ≪履修に当たっての留意点≫

講義で伝えた内容を学生が理解できているか、確認しながら進める

精神科看護とは何かを考え、自分の言葉で人に伝えられるよう、GWなどを取り入れる

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	1. 精神障害についての基本的な考え方	講義
2	2		講義・演習
3	2	2. 人間のこころと行動	講義
4	2	3. 人格の発達と情緒体験	講義・演習
5	2	4. 人生各期の発達課題	講義
6	2	ライフサイクルとメンタルヘルス	講義
7	2	胎児期から老年期	講義・演習
8	2		講義・演習
9	2	5.現代社会とこころ 1)現代社会の特徴	講義
10	2	2) 現代社会とこころの問題 3) 現代社会の親と子ども	講義・演習
11	2	6. ストレスに対する身体的反応―心身症	講義
12	2	事例から関りを考える	講義・演習
13	2	7. 家族とその支援	講義
14	2	事例から関りを考える	講義・演習
15	2	8. 精神保健医療福祉をめぐる法律	講義

科目名	精神看護学概論Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☑

病院勤務経験のある教員が担当している。

#### ≪科目目標≫

学習目的:精神看護の対象を理解し、患者-看護師関係について学ぶ。また、現代社会の中で

起きてくる心の健康問題および精神保健制度について理解する。

学習目標:1.精神看護における患者-看護師関係について理解する。

2. 社会環境の変化と心の健康問題について理解する。

3. 精神医療・看護の歴史的変遷について理解する。

4. 今日の精神保健制度と今後の課題について理解する。

#### **≪成績評価の方法**≫ 筆記試験

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
- ② ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版
- ③ パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社
- ④ はじめての精神科看護 メディカ出版

#### ≪授業外における学習方法≫

グループワーク

#### ≪履修に当たっての留意点≫

対象の生きにくさを対象の立場に立った視点で考えていくことの大切さを知ってほしい。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	現代社会とこころの問題	講義
2	2	精神障害についての考え方・精神看護における対象の理解	演習
3	2	精神科看護におけるケアの方法・生きにくさの理解	講義
4	2	精神科看護におけるコミュニケーション・対人関係の持ちにくさ	講義
5	2	・看護師に求められるコミュニケーション技術	講義
6	2	・「共感する」ということ	講義
7	2	患者 - 看護師関係のアセスメント・プロセスレコードの活用	講義
8	2	<ul><li>プロセスレコードの展開</li></ul>	演習
9	2	看護師のストレスマネジメント	講義
10	2	精神医療の歴史と看護	講義
11	2	精神保健医療に関わる法制度の変遷	講義
12	2	精神保健福祉法の理解	講義
13	2	障害者総合支援法の理解と実際および訪問看護の役割	講義
14	2	・社会資源の活用	演習
15	2	精神科リハビリテーションと地域生活を支える援助	講義

科目名	精神看護の方法 I (疾患)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位 (時間)	1 (8/30)	開講時期	2年前期

担当教員: 非常勤講師

## ≪科目目標≫

精神が障害された人を理解するための基礎的知識として、障害の分類と精神障害の病態・検査・治療について学ぶ

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

① ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メデイカ出版

# ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	認知症、せん妄、てんかん	講義
2	2	統合失調症	講義
3	2	うつ病、躁鬱病、その他の気分障害	講義
4	2	依存、パーソナリティー障害、神経性無食欲症、発達障害、PTSD	講義

科目名	精神看護の方法 I (看護)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (22/30)	開講時期	2年後期

#### 担当教員: 専任教員

#### 実務経験のある教員による授業

臨床・看護教員として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。

# ≪科目目標≫

学習目的:精神科の看護領域で見られる精神病状態像にある人への看護について理解する

学習目標:精神が障害された人を理解するための基礎知識を身に付ける

精神障害を持つ人への身体ケアについて学ぶ

#### ≪成績評価の方法≫

筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
- ② ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版
- ③ パーフェクト臨床実習ガイド精神看護 照林社
- ④ はじめての精神科看護 メディカ出版

#### ≪授業外における学習方法≫

DVDを各自視聴するなどし、イメージをつけて講義に臨むことができる

#### ≪履修に当たっての留意点≫

対象について何故そう考えるのかと学生が考え、考えを共有できるように、グループワーク や発表の機会を作る

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	1. 精神障害を持つ人への主な治療と看護	講義
2	2	1)薬物療法 2)精神療法 3)リハビリテーション	講義
3	2	2. 精神科看護におけるケアの方法	講義
4	2		講義
5	2	3. 入院環境と治療的アプローチ	講義
6	2	4. 精神科看護におけるリスクマネジメント	講義
7	2	5. ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割	講義
		6. 精神科看護の領域でみられる状態と看護	講義
8	2	1)抑うつ障害と双極性障害 2)統合失調症	
		3) 不安障害・迫性障害 4) 依存・パーソナリティ障害	
9	2	6. 精神科看護の領域でみられる状態と看護	講義・GW
10	2		講義・GW
11	2	6. 精神科看護の領域でみられる状態と看護	講義・発表

科目名	精神看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3年前期

担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☑

病院勤務経験のある教員が担当している。

## ≪科目目標≫

学習目的:セルフケア理論を用いて精神障害者の生活する力をアセスメントし、看護を過程す

る方法を学ぶ。

学習目標:セルフケア理論を理解し、事例を通して紙面上での看護を展開する。

#### ≪成績評価の方法≫

グループワークによるレポート・筆記試験

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
- ② ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版
- ③ パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社
- ④ はじめての精神科看護、メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

グループワーク

#### ≪履修に当たっての留意点≫

実習の実際の記録を使用して紙上事例を展開していきながら患者とのかかわりがイメージできるといい。

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	1. セルフケア理論-オレム・アンダーウッド理論	講義
2	2	2. 患者-看護師関係の理論	講義
3	2	3. セルフケア理論を用いた看護過程の展開方法	講義
4	2	4. 統合失調症の事例を用いた看護の展開	講義・演習
4	Δ	1)情報収集(基本的条件づけの要因)	
5	2	2) 精神状態の査定	講義・演習
6	2	3) アセスメント (普遍的セルフケア要件)	講義・演習
7	2	4) 看護の方向性から看護計画立案と全体像の把握	講義・演習
8	1	5. 患者とのコミュニケーションのポイント: DVD より	講義

科目名	総合演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期

## 担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ▽

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を想定し講義を行っている

## ≪科目目標≫

看護を統合的にとらえ、臨床判断能力、自己学習力を培い、自らの課題を明らかにする。 シミュレーションの経験を通して、学習者が振り返り、検証することによって専門的な知識・ 技術・態度の統合を図る。学習者同士の情報の共有・協力・調整する力を身につける。

## ≪成績評価の方法≫

課題の評価表(ルーブリック)に基づき評価する

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

動画による事例

## ≪授業外における学習方法≫

## ≪履修に当たっての留意点≫

事前学習を十分に行って授業に臨む

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	オリエンテーション	講義
1	2	事例①場面の情報から気づいたこと	演習
2	2	事例①に必要な基礎知識 (グループ内共有)	演習
3	2	事例①の看護について考える	演習
4	2	事例①の看護のまとめ	演習
5	2	事例②場面の情報から気づいたこと	演習
6	2	事例②に必要な基礎知識 (グループ内共有)	演習
7	2	事例②の看護について考える	演習
8	2	事例②の看護のまとめ	演習
9	2	シミュレーション学習のオリエンテーション	演習
9	2	シミュレーション①の事前学習	( ) ( ) ( ) ( )
10	2	   シミュレーション①(訪室時の気づきと関連した観察)	演習
11	2	マスエレ フョン①(助主所の入りごと例座した既然)	(四日
12	2	シミュレーション②の事前学習	演習
13	2	   シミュレーション②(その場の状況から判断し看護実践する)	演習
14	2	マスユビーマコマ色(Cv/勿い小小ハパッサ刊的し自暖大成り分)	1円 日
15	2	まとめ	講義

科目名	看護総合 I (看護倫理)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	3年後期

## 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 ✓

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

## ≪科目目標≫

学習目標:1.看護における倫理の必要性について学ぶ。

- 2. 看護倫理に関する基本的知識を理解する。
- 3. 事例分析を通して、適切で倫理的な意思決定と行動について学ぶ。

## ≪成績評価の方法≫

レポート「臨地実習における看護体験の中から、倫理的な問題について考える」

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	授業ガイダンス 映像から見る看護倫理	講義・演習
2	2	患者権利宣言、倫理とは、倫理的行動とは、看護職の倫理綱領	講義・演習
3	2	看護倫理の実践とは 事例分析①	講義・演習
4	2	事例分析②	講義・演習
5	2	事例分析のまとめ	講義・演習

科目名	看護総合 I (看護管理·医療安全)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	3学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	3年後期

担当教員: 非常勤講師

## ≪科目目標≫

医療を取り巻く社会環境の変化と、そこにおける看護の位置づけを学ぶと共に、チーム医療 及び多職種との協働の中でメンバーシップ、リーダーシップを理解する。

また医療事故が起こる過程とそれを防止する対策、医療メディエーションを理解する。

## ≪成績評価の方法≫

筆記試験

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版
- ② ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	医療安全を学ぶ意義 事故防止の考え方など	講義
2	2	診療補助の事故防止について	講義
3	2	診療補助の事故防止について	講義
4	2	コンフリクト・マネジメント 医療メディエーション	講義
5	2	医療安全とコミュニケーション	講義
6	2	看護とマネジメント 看護管理とは チーム医療について	講義
7	2	看護サービスマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり	講義
8	2	人材のマネジメント 施設、物品のマネジメント ME,薬剤	講義
9	2	組織とマネジメント リーダーシップ 組織と個人の関係づくり	講義
10	2	看護制度について 看護サービスと経済の仕組み、看護政策	講義

科目名	看護総合Ⅱ(国際・災害看護)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3年後期

## 担当教員: 専任教員

## 実務経験のある教員による授業

 $\square$ 

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を 行っている。

## ≪科目目標≫

- 1. 国際的にどのような健康問題が課題になっているかを理解し、国際看護の基本理念を理解し、その方法を考える。
- 2. 災害が生活に及ぼす影響を理解し、災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解する。

# ≪成績評価の方法≫

筆記試験・レポート

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版

## ≪授業外における学習方法≫

#### ≪履修に当たっての留意点≫

日頃起こっている災害から思うことや自身の考えを持ちながら授業に臨んでほしい

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	国際看護学と国際看護の定義・日本における国際看護	講義
2	2	グローバリゼーションと国際看護・日本の国際協力活動	講義・演習
3	2	災害看護の定義・災害と倫理	講義
4	2	災害の種類と被害・疾病の特徴・災害関連死・災害サイクル	講義
5	1	災害医療に関する国の政策・災害医療に関する法律	講義
6	2	配慮を必要とする人への支援と看護	講義
		災害時に必要な医療・看護技術	講義・演習
7	2	(CSCATTT・トリアージ・代用品を利用した応急処置など)	
'	2	実習中に災害が起こったらどうする!?	
		~シミュレーション学習を通して~	
8	2	被災者と支援者の心理の理解と援助	講義

科目名	看護研究演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	3年全期

担当教員: 専任教員 実務経験のある教員による授業 ▽

看護研究実績の経験をもとに、看護研究の意義から研究の発表までを教授している。

# ≪科目目標≫

実践した看護の中から課題を見出し、ケーススタディとしてまとめる。この過程を通して、 文献の活用、倫理的配慮、科学的・論理的なものの見方や考え方を学び、自己の看護観を深め、 研究の基礎能力を身につける。

## ≪成績評価の方法≫

論文・発表に対する看護研究演習評価表(ルーブリック)に基づいて評価する

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

はじめて学ぶケーススタディ 総合医学社

## ≪授業外における学習方法≫

回数	時間数	内 容	教授方法
1	2	1. 看護研究の意義と目的	講義
1	2	2. 研究の種類及び方法	
2	2	3. 看護研究のプロセス	講義・演習
	2	4. 研究計画書の作成	
3	2	5. 文献検索について	講義・演習
4	2	論文・抄録の作成、発表、評価など	講義・演習
		6. 研究の実際	講義・演習
5	2	1) ケーススタディの完成 2) 抄録の作成	
		3) スライドによる発表準備	
6	2	4) ケーススタディの発表・講評	演習
7	2		
8	2		
9	2		
10	2		
11	2		
12	2		
13	2		
14	2		
15	2		

科目名	基礎看護学実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (45)	開講時期	1年後期

# 担当教員: 堀 寿美枝

実務経験のある教員による授業 ✓

看護師としての実務経験と看護教員としての経験を活かし、看護職の役割と機能について教授している。

# ≪科目目標≫

実習目的:講義で学んだ看護の機能や基礎看護技術の知識・技術やその考え方を基に、病院に おける看護師の役割を理解する。また患者の療養生活環境を知り、患者とのコミュ ニケーションや援助を通して、看護師として大切にしたいことを考える。

## ≪成績評価の方法≫

実習評価表に基づき評価する。

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

- ① ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
- ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA

他

# ≪授業外における学習方法≫

事前学習、課題学習

## ≪履修に当たっての留意点≫

臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実り あるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んで ください。

実習プログラム					
実習期間	1 学年 9 月~10 月				
時間数	合計 45 時間				
	1. 病院における看護師の役割を理解する				
	2. コミュニケーション技術を意識して、患者と関わることができる				
	3. 患者の状態に合わせた援助がどのように実施されているかを学び、患者の思				
実習内容	いに沿いながら援助を考えることができる				
	4. 看護について考えたことをまとめる				
	   5.看護者として望ましい態度とは何かを考え、行動する				

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	1年後期

担当教員:上田 麻衣 実務経験のある教員による授業 🗸

看護師として看護業務に携わった教員が教授している。

#### ≪科目目標≫

患者を受けもち、コミュニケーション技術を用いて援助的な人間関係を形成する。ヴァージニア. A. ヘンダーソンの看護理論用いて看護過程の基礎的部分を展開し、患者の全体像を捉え、健康障害や患者の気持ち、強みやニーズを考えた看護援助を実施する。振り返りから援助が患者に及ぼす影響を多角的に考える力を身につけ、よりよい看護を目指し看護の「個別性」とは何かを考える機会としていく。

そして、これまでの実習を通した学びから、初期段階における看護に対する自己の考えを もち今後の自己の看護についての示唆となるようにする。

また、主体的に学ぶ姿勢や専門職として望ましい態度を身につけていき、グループメンバーと協同することで情報共有やお互いを尊重して関わる大切さの必要性に気づき、さらに、グループメンバー・病院スタッフ・教員との連携が円滑に行えるよう自ら働きかけることで多職種連携に求められる基礎的な能力を身につけていく。

# ≪成績評価の方法≫

実習評価表に基づき評価する。

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

人体の構造と機能・疾病と治療・薬理学・基礎看護技術などの講義で使用した教科書 参考書・資料

## ≪授業外における学習方法≫

実習に関連する講義の内容を振り返り、理解する。

基礎看護技術の講義で既習している看護技術は、積極的に練習する。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

実習オリエンテーションの内容について理解し、主体的に実習に臨む。

臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につけられる機会となるため、実習に 参加できるよう健康管理に留意し臨む。

実習プログラム					
実習期間	1 学年 1 月				
時間数	合計 90 時間				
	1. コミュニケーション技術を用いて、援助的な人間関係を築くことができる				
	2. 患者の全体像をとらえ、必要な看護を考える				
実習内容	3. 患者に必要な看護援助が実施できる				
	4. 看護に対する考えを述べることができる				
	5. 看護専門職者として望ましい態度を身につける				

科目名	地域・在宅看護論実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (45)	開講時期	1年後期

# 担当教員: 井上 亜希

実務経験のある教員による授業

在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している

# ≪科目目標≫

地域の特性と生活の視点から地域で生活するあらゆる年齢の人と支援から地域全体をとらえ る力を身につけ、フォーマル・インフォーマルな社会資源について学ぶ。

#### ≪成績評価の方法≫

実習評価表(ルーブリック)に基づき評価する。

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

授業で使用した教科書、資料等

# ≪授業外における学習方法≫

事前学習、課題学習を行う

#### ≪履修に当たっての留意点≫

臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあ るものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでくださ V10

実習プログラム				
実習期間	1 学年後期			
時間数	合計 45 時間			
	1. 地域の特性を理解する			
	2. 地域で生活する人の暮らしとフォーマルな社会資源・インフォーマルな			
実習内容	社会資源について理解する			
	3. 実習で体験したことを振り返り、地域で生活する人と暮らしを理解する			
	4. 看護学生として責任ある行動がとれる			

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年全期

#### 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 🗸

在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している

#### ≪科目目標≫

地域で生活する人に対する地域保健活動と地域で療養する人への看護実践を通して、看護師としての思考力、判断力の基礎的能力を養う。地域包括ケアシステムの一員として看護の役割を理解し、多職種と協働し地域と連携する力を身につける

#### ≪成績評価の方法≫

実習評価表(ルーブリック)に基づき評価する。

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

授業で使用した教科書、資料等

#### ≪授業外における学習方法≫

事前学習、課題学習を行う。

# ≪履修に当たっての留意点≫

臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。

# 実習プログラム

# 実習期間<br/>時間数3 学年 5 月~11 月<br/>合計 90 時間上<br/>大<br/>大<br/>大<br/>大<br/>大<br/>大<br/>イ<br/>・<br/>大<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・<br/>・

科目名	成人·老年看護学実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	2 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	2年後期

#### 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 🗸

老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。

# ≪科目目標≫

地域で暮らす高齢者との関わりを通して、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の 役割を学ぶとともに、予防的な視点を持ちながら高齢者が持てる力を発揮し、生き生きと暮ら していけるための知識・技術・態度を身につける。

#### ≪成績評価の方法≫

実習評価表に基づき評価する

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

授業で使用した教科書、資料等

# ≪授業外における学習方法≫

実習に関わる講義の内容を理解しておく。

特に加齢変化の特徴や高齢者の生きてきた時代背景について授業資料や文献を活用し、理解を深めておく。

# ≪履修に当たっての留意点≫

複数の施設で学ぶことができる機会である為、体調を整え、主体的に参加する姿勢を持つ。

	実習プログラム					
実習期間	2 学年後期					
時間数	合計 90 時間					
実習内容	<ol> <li>介護保険施設で生活する高齢者の身体面、心理面、社会面の特徴と看護を理解する。</li> <li>介護保険施設の機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>予防の視点を持ち、施設入居者の生活機能に合わせた看護を実践する。</li> <li>自宅から通所施設に通う高齢者の特徴を理解する。</li> <li>通所施設の機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>予防の視点を持ち、通所施設利用者個々の状況を考えた看護を実践する。</li> <li>グループホームの機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>がループホームの機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>認知症高齢者の特徴と看護を理解する。</li> <li>高齢者における看護のあり方について考察する。</li> </ol>					

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	2学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	2年後期

担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 🗸

成人看護に携わった教員及び臨床看護師が教授している

#### ≪科目目標≫

成人・老年期の対象の特徴を踏まえ、様々な健康レベルにあり治療の場に入院する対象の全人的理解に努める。また、既習の慢性期・回復期・終末期の経過別看護の視点をもって、問題解決のための過程を理解する。既習の知識・技術の統合あるいは新たな学習により、必要な看護を実践し、評価することを学ぶ。

上記の学習を学生間で協力して学び、実習メンバー間の情報の共有や協調・協力できる力を養う機会とする。

# ≪成績評価の方法≫

実習評価表に基づき評価する

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

各講義で使用した教科書や配布資料

#### ≪授業外における学習方法≫

対象の病期の看護の特徴について授業内容を復習すること

# ≪履修に当たっての留意点≫

実習プログラム					
実習期間 時間数	2 学年後期 合計 90 時間				
実習内容	1. 成人・老年期にある対象とその家族を理解する 2. 対象の健康状態やセルフケア能力に応じた支援・援助を行う 3. 対象および家族を支える看護師と他職種の役割、多職種連携ついて考える 4. 対象への看護を通して自己の看護観を養う 5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ、自己の向上に努めることができる				

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年前期

# 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 🗸

老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。

#### ≪科目目標≫

実習目的: 入院している対象を全人的にとらえ、健康上の課題を明らかにし、その人のもてる力を見出す思考を育て、看護実践能力を身につける。

また、継続看護の必要性とそれを支える多様な職種を理解する。

# ≪成績評価の方法≫

実習評価表(評価基準表)に基づき評価する。

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

生活機能からみた老年看護過程 医学書院 他

#### ≪授業外における学習方法≫

事前学習、課題学習を行う。

#### ≪履修に当たっての留意点≫

臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。

#### 実習プログラム

		7,67 - 7 7 - 7				
	実習期間	3 学年 5 月~7 月				
	時間数	合計 90 時間				
		1. 加齢変化、疾病・治療の状況を把握し、生活への影響を捉える				
		2. 患者及び家族の意向・生活に焦点を当てた目標設定をする				
	中羽市宏	3. 対象のもてる力が引き出されるような看護を実践をする				
	実習内容	4. 高齢者の生活と健康を支える多様な職種を理解する				
		5. 自分の老年看護観を持つ				
		6. 看護専門職者として望ましい態度を身につける				

科目名	成人・老年看護学実習IV	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位 (時間)	2 (90)	開講時期	3年全期

#### 担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 ☑

成人看護に携わった教員及び臨床看護師が教授している。

#### ≪科目目標≫

- 1. 周手術期にある対象の全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立へと援助するための基礎的知識・技術・態度を養う
- 2. ICU・ERICU における対象の特徴と看護の実際を知り、生命の危機的状況にある人を支える看護師の役割について考える。

#### ≪成績評価の方法≫

実習評価表に基づき評価する。

## ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1,2,3:医歯薬出版

#### ≪授業外における学習方法≫

事前学習を行う

#### ≪履修に当たっての留意点≫

- 1. 提示された事前課題に積極的に取り組み、実習に活用できるように理解する。
- 2. 事前学習をもとに、患者の個別性が理解できるように実習記録に積極的に取り組む。
- 3. 患者の術後経過に応じ、異常の早期発見・合併症の予防ができるよう必要な看護について考え実践する。

# 実習期間<br/>時間数3 学年 5 月~11 月<br/>合計 90 時間時間数1. 周手術期にある患者とその家族の心理状態を理解する。<br/>2. 患者の病態および治療方法を理解し看護の方向性がわかる<br/>3. その人らしさを考えながら、全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立に向けての支援を実施できるは、対象のセルフケア能力を引き出し、自立に向けての支援を実施できる<br/>4. 周手術期における多職種連携を理解する<br/>5. 周手術期にある人を支える看護師の役割を考えることができる<br/>6. ICU・ERICUでの看護師の役割を理解する<br/>7. 看護者にとって必要な態度を身につける

科目名	母性看護学実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年全期

担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 🗸

周産期看護業務に携わった教員及び臨床助産師が教授している。

# ≪科目目標≫

正常な妊娠・分娩・産褥および新生児期の対象に適した看護援助を学ぶ。

# ≪成績評価の方法≫

実習評価表に基づき評価する。

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

# ≪授業外における学習方法≫

事前学習、課題学習を行う。

# ≪履修に当たっての留意点≫

臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実り あるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んで ください。

	実習プログラム					
実習期間	3 学年 5 月~12 月					
時間数	合計 90 時間					
	1. 妊婦の特徴と看護を理解する					
実習内容	2. 産婦の特徴および分娩の経過と看護を理解する					
天百四谷	3. 褥婦・新生児の特徴を理解し、看護を実践する					
	4. 母性看護における看護師の役割を理解する					

科目名	小児看護学実習	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年全期

担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 🗸

小児看護業務に携わった教員が教授している

# ≪科目目標≫

子どもの成長発達段階の特徴を理解したうえで、個々の健康状態に応じて、子どもと家族が 生き生きと生活できるように支援するための基礎的な能力を養い、子どもの最善の利益を守る 看護について考える

# ≪成績評価の方法≫

実習評価表に基づき評価する

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

#### ≪授業外における学習方法≫

事前学習・事前準備を行う

# ≪履修に当たっての留意点≫

プロジェクト学習を取り入れています。実習に対して自ら目標をもち、課題を解決するため に何を準備したらよいかを考え、主体的に臨んでください

臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会となります。実習をより 実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んで ください

実習プログラム						
実習期間	3 学年 5 月~12 月					
時間数	合計 90 時間					
	1. 健康な乳幼児の成長と発達に応じた支援の実際を知る					
	2. 患児の成長発達と患児を取り巻く環境を理解し、患児と家族を尊重したかか					
	わりを行う					
実習内容	3. 患児の健康障害を理解し、病状に応じた必要な看護について考える					
天百四谷	4. 子どもの安全を守るために必要な看護を実践する					
	5. 地域で生活する子どもの健康を守る支援について知る					
	6. 小児看護における看護師の役割について述べる					
	6. ハイリスク新生児の特徴と NICU (新生児センター) での看護の実際を知る					

科目名	精神看護学実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年前期

担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 🗸

精神看護学業務に携わった教員が教授している

# ≪科目目標≫

精神に障害を持つ人の治療環境・患者 - 看護師関係における治療的関りを体験を通して学ぶ

# ≪成績評価の方法≫

実習評価表に基づき評価する。

# ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

# ≪授業外における学習方法≫

# ≪履修に当たっての留意点≫

実習プログラム						
実習期間	<b>実習期間</b> 3 学年 5 月~7 月					
時間数	<b>時間数</b> 合計 90 時間					
	1. 精神に障害を持つ人の治療環境を理解する					
	2. 精神に障害を持つ人との患者 - 看護師関係における治療的な関りを体験を					
実習内容	通して学ぶ					
	3. 精神に障害を持つ人を理解し、必要な看護を考察することができる					
	4. 精神保健活動における看護師の役割と社会復帰の現状について理解できる					

科目名	総合実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	3 (135)	開講時期	3年後期

担当教員: 専任教員

実務経験のある教員による授業 ✓

病棟での看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している

# ≪科目目標≫

複数患者の退院後を見据えた情報を収集し、メンバーと協力し計画的に援助することを学ぶ。 受け持ち患者の優先順位を考え、多重課題への対応も話し合いながら、その時々に応じた状況 を捉え、判断し実践につながるような思考を身につけていく。実施後には1つ1つの現象から リフレクション(気づき・解釈・反応・省察)し実践する力につなげていく。

複数受け持ち・同行・夜間実習を通し、チーム内でのリーダーシップやメンバーシップ、役割遂行や多職種連携を学ぶ。また多職種連携から看護師の役割について考える。看護管理としてミドルマネージャーである師長が部署の責任者として他部門との連携・調整をどのように行っているのか、またチームを率いるリーダーがリーダーシップ役割をどのように果たし、チームを有効に機能させているのか学ぶ機会を持つ。そして総合実習が3年間の自分の看護を統合でき、これからの自分の看護に繋がることを願っている。

#### ≪成績評価の方法≫

実習評価表に基づき評価する。

#### ≪使用教材(教科書)及び参考図書≫

ナーシンググラフィカ 看護学概論・看護管理 メディカ出版

#### ≪授業外における学習方法≫

実習する病棟の特徴を理解し、疾患・看護の事前学習を行う

#### ≪履修に当たっての留意点≫

チームで取り組む実習であるため、グループでコミュニケーションを密に行い、情報の共有 を図っていく。

# 実習プログラム 実習期間 3 学年 10 月~12 月 時間数 合計 135 時間 1. チームで複数患者を受け持ち、患者の1日の生活リズムを考えながら、病態、 治療を踏まえ、退院後を見据えた看護計画を立案し、計画的に援助ができる。 2. 1つ1つの現象からリフレクション(気づき・解釈・反応・省察)し、自己 の看護実践について考え、判断していく能力を高めていく。 実習前後における自己の成長について振り返り、到達度・達成度について考 実習内容 え、これからの課題を明らかにする。 3. 学生のチーム内でリーダー・メンバーを行い、それぞれの役割を果たしなが ら看護が実施できる。 4. 同行・夜間実習からチーム内でのリーダーシップやメンバーシップを学ぶ。 5. 同行や夜間実習から看護援助の実際を理解する。

- 6. 多職種連携について理解する。
- 7. 看護管理について病棟師長から部署の管理者として多職種との連携・調整の実際について話を聞き学ぶ。
- 8. 実習での学びから自分の考える複数患者への看護実践について述べることができる。